

-Manila Edition-

HEALTHY LIFESTYLE

ヘルシーライフスタイル | マニラ版

はじめに

ASEAN各国の経済発展が進む中、所得の向上、ライフスタイルの変化とともに、糖尿病など生活習慣病が拡大し、健康に対する意識も高まっている。また、高齢化の度合は国ごとに差があるが、平均寿命が上昇し、高齢化への対応は国にとっても、個人にとっても重要な課題となってきた。特にフィリピンはASEANの中でも出生率が高く人口ボーナスが長期に続き、経済成長に伴って健康への意識も高まることが予想される。

「ヘルシー・ライフスタイル」は、こうした健康や高齢化に係るフィリピンの市場に対して関心を持つ日本企業の皆様へ、ヘルスケア分野でのビジネス展開に必要な情報エッセンスをわかりやすく提供することを目的に作成した。健康や高齢化に係る事情から社会保障政策・制度、医療や介護、スポーツ、食などの幅広い健康市場のトレンド、さらにアンケート調査や座談会を通じて浮き彫りとなった消費者の健康や退職後のライフスタイルに対する意識、健康管理・増進に向けたアクティビティなど多くのトピックスを盛り込んでいる。

本著がヘルスケア産業で活躍される皆様にとり、今後のフィリピンでのビジネス展開の一助となれば幸甚である。さらに、日本発の製品・サービスがフィリピンをはじめ、広くASEANが直面する健康課題の解決につながることを祈念している。

2019年2月

日本貿易振興機構（ジェトロ）
マニラ事務所
サービス産業部



-Manila Edition-

HEALTHY LIFESTYLE

フィリピンの基本情報	04
01 ヘルスケア基本データ	07
02 ヘルスケア関連政策・制度	11
03 ヘルスケア分野の特徴と傾向	19
04 健康や老後に対する意識・活動調査	33

【免責事項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本調査レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。

フィリピンの基本情報

多数の島国からなるASEAN第二の人口大国

2014年に人口1億人を突破したフィリピンは、ASEANではインドネシアに次ぐ人口大国である。2017年の経済成長率は、6.7%を記録し、急速に発展を遂げている。国土面積は30万平方キロメートルと日本の約8割で、7,109の島から構成されている。全就業人口のうち約27%が農林水産業に従事

している一方で、サービス産業には約56%が従事している。サービス産業の比率が比較的高い理由としては、公用語の一つが英語であるため、欧米を中心とした英語圏の企業のコールセンター事業等のビジネス・プロセス・アウトソーシング(BPO)産業が発展していることが挙げられる。

【マニラの概況】

全人口の約13%が集結する都市

マニラ首都圏は、フィリピン北部のルソン島に位置する政治、経済の中心である。人口は、2015年時点で1,288万人であり、2010年の1,186万人から年率1.58%で増加している。面積は619平方キロメートルで、17の市・町から構成されている。毎年、世界の都市人口ランキングを発表する米民間調査機関Demographia(2018年)によると、マニラ首都圏は、日本の東京・横浜、インドネシアのジャカルタ、インドのデリーに次ぐ世界第4位の人口を誇る。

マニラの地図

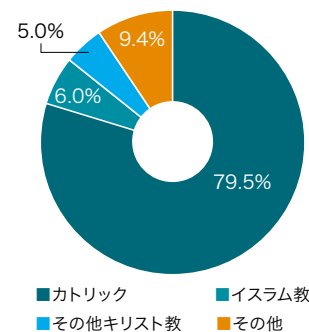


【宗教】

ASEAN唯一のキリスト教国

フィリピン国民の約80%がカトリックを信仰し、その他キリスト教を約5%が信仰している。イスラム教徒は全体の約6%を占める。南部のミンダナオ島では、スペイン統治下時代にキリスト教への改宗に抵抗した者が多く残った結果、イスラム教徒が島の人口の2割以上に及ぶ。16世紀、スペイン人によってもたらされたカトリックは、スペイン統治下時代を経てフィリピン全土へ普及していった。ルソン島に位置するマニラでは、カトリック教会を代表に、その他のキリスト教派の教会もいたるところで見かけることができる。毎週日曜日には多くの教会でミサが開かれ、人々が賑わいを見せる光景は、フィリピン人の生活にキリスト教が深く根付いていることを象徴している。

フィリピンの宗教分布



出所：2015年フィリピン国勢調査

カトリック教会

出所：セントアンドリュースポル教会 (PwC撮影)



【経済成長率】

フィリピンの GDP は約 3,136 億米ドル (世界銀行、2017 年) であり、ASEAN では、インドネシア、タイ、シンガポール、マレーシアに次いで第 5 位である。2015 年のフィリピン GDP 約 3,000 億米ドルを基準にすると、過去 10 年間で経済規模が約 3 倍拡大

している。一人当たりの GDP は 2,989 米ドル (2017 年) で、ASEAN では、シンガポール、マレーシア、タイ、インドネシアに次ぐ第 5 位の規模である。

ASEAN 各国の経済指標 (2017 年)

国名	名目 GDP (10 億米ドル)	一人あたり GDP (米ドル)	実質 GDP 成長率 (%)	人口 (百万人)
インドネシア	1015.539	3,847	5.1	263.99
タイ	455.221	6,594	3.9	69.04
シンガポール	323.907	57,714	3.6	5.61
マレーシア	314.500	9,945	5.9	31.62
フィリピン	313.595	2,989	6.7	104.92
ベトナム	223.864	2,343	6.8	95.54
ミャンマー	69.322	1,299	6.4	53.37
カンボジア	22.158	1,384	6.8	16.01
ラオス	16.853	2,457	6.9	6.86
ブルネイ	12.128	28,291	1.3	0.43

出所：世界銀行 (2017 年)

フィリピンの物価、経済成長率推移

	2013 年	2014 年	2015 年	2016 年	2017 年
消費者物価上昇率 (%)	2.6	3.6	0.7	1.3	2.9
実質 GDP 成長率 (%)	7.1	6.1	6.1	6.9	6.7

出所：フィリピン統計局 (2017 年)、フィリピン中央銀行 (2017 年)

為替レート (1 米ドルにつき、フィリピンペソ、期中平均)

2014 年	2015 年	2016 年	2017 年
44.4	45.5	47.5	50.4

出所：フィリピン統計局、フィリピン中央銀行のデータをもとに JETRO 作成 (2018 年)

【インフラ事情】

活発なインフラ投資

2016 年に就任したロドリゴ・ドゥテルテ大統領が、大規模なインフラ整備計画「Build, Build, Build」プログラムを策定し、国を挙げてインフラ投資を推進している。2018 年度のインフラ関連予算は前年比 27.9% 増の約 1.1 兆ペソであり、これは同年 GDP 総額の 6.3% に相当する。ロドリゴ・ドゥテルテ大統領は任期満了の 2022 年までに、インフラ支出の対 GDP 比を 7.4% へ引き上げる目標を掲げており、今後 5 年間で 8 兆ペソ～9 兆ペソの資金が割り当てられる計画である。

【気候】

フィリピンは熱帯海洋性気候で、高温、多湿多雨が特徴である。季節は、6 月から 11 月の雨季と 12 月から 5 月までの乾季に分けられる。年間平均気温は 26.6℃で、最も低い月は 1 月で 25.5℃、最も高い月は 5 月で 28.3℃である。

湿度は一年を通して 70%～80% と多湿であり、特に気温の高い 3 月から 5 月は体感温度がさらに高くなる。台風はフィリピンの気候に大きな影響を与える要因で、多くの場合マリアナ・カロリン諸島付近で発生した台風がフィリピンに上陸し、多量の雨をもたらす。

【交通事情】

鉄道は、フィリピン運輸省の管理下で4本の路線がマニラに敷設されている。パサイからケソンまでの南北を結ぶLRT1号線、マニラとマリキナを東西に結ぶLRT2号線、エドサ通りに沿ってパサイとケソンを南北に結ぶMRT3号線、マニラとビコール州を結ぶPNRが開通している。今後、2022年の部分開通を目標に、フィリピン政府と国際協力機構（JICA）での円借款による地下鉄建設が予定されている。道路は、人口密度の高いマニラにおいて、ジープニーやUV Expressといった乗合

タクシー、バス、自家用車など様々な交通手段が多く行き交い、慢性的に渋滞が発生している。高速道路は、北のケソンとルソン島北部を結ぶNorth Luzon Expressway (NLEX)と、南のマカティから延びるSkyway 経由でルソン島南部に至るSouth Luzon Expressway (SLEX)がある。2018年8月時点でマニラ首都圏を東西、南北に繋ぐ高速道路はないが、ケソンとマカティを繋ぐ建設計画（2019年完工予定）が進行している。

マニラの鉄道地図



PwC 作成

【日本との関係】

堅調な日系企業の進出

2010年に1,075社であった日系企業数は2014年に1,521社に達した。その後横ばいの状態が続いており、2017年時点で1,502社となっている。この数字は、ドイツに次ぎ世界第8位（2017年）で、この10年間で進出日系企業数は2.2倍になった。特に近年はサービス産業分野の日系企業の進出が顕著である。ジェトロの「2017年度アジア・オセアニア進出日系企業実態調査」によると、日系企業が挙げるフィリピンの投資環境上のメリットとして、人件費の安さ、言語・コミュニケーション上の障害の少なさに続いて、市場規模・成長性がトップ3に挙げられている。このことから、生産・製造拠点としてだけでなく、有望な消費市場としてフィリピンが捉えられていると言える。また、国内自動車市場は、2017年の新車販売台数が47万4,000台と、2016年の40万5,000台から17.1%増加し、過去最高を記録した。また、政府は2016年に6年間で20万台以上の現地生産と一定規模以上の投資を条件に

計270億ペソを支援する「包括的自動車産業振興戦略（CARS）プログラム」を策定し、トヨタ自動車および三菱自動車が認定を受けるなど、今後、国内の自動車市場・産業の発展が期待される。

【日本とマニラのコネクティビティ】

日本とマニラとの就航区間は、成田国際空港、羽田空港、中部国際空港、関西国際空港、福岡空港であり、飛行時間は、4時間～5時間である。成田国際空港発マニラ着便は、1日に9便、羽田空港発マニラ着便は1日に3便となっている（2018年8月時点）。



ヘルスケア 基礎データ

- ・人口構成
- ・出生率と平均寿命



ヘルスケア 基礎データ

【人口構成】

若年層の厚い人口構成

フィリピン統計局によると、フィリピン全国の人口は1.0億人(2015年)で、人口増加率は1.7%、年換算で173万人増加している。マニラ首都圏は、人口1,288万人(2015年)で全国の13%を占める。マニラ首都圏の15歳未満の人口は350万人で、これは首都圏の人口の27.2%を占め、全国平均の31.8%よりも4.6ポイント低い。

一方、マニラ首都圏の60歳以上の人口は85万人で首都圏の人口の6.6%を占め、全国平均の7.5%よりも0.9ポイント低い。また、65歳以上の人口もマニラ首都圏の人口の3.9%に過ぎず、全国平均(4.7%)に比べて低いことから、マニラ首都圏は生産年齢人口が厚いといえる。

マニラ首都圏の人口構成(2015年)

年齢階層	人数(人)			割合(%)		
	男性	女性	合計	男性	女性	全体
0 - 4	622,181	578,262	1,200,443	9.8	8.9	9.3
5 - 9	600,902	562,817	1,163,719	9.4	8.6	9.0
10 - 14	583,036	552,556	1,135,592	9.2	8.5	8.8
15 - 19	618,218	635,585	1,253,803	9.7	9.8	9.7
20 - 24	661,172	687,833	1,349,005	10.4	10.6	10.5
25 - 29	626,570	638,532	1,265,102	9.8	9.8	9.8
30 - 34	555,830	548,788	1,104,618	8.7	8.4	8.6
35 - 39	480,592	483,275	963,867	7.5	7.4	7.5
40 - 44	408,420	409,369	817,789	6.4	6.3	6.4
45 - 49	347,683	364,570	712,253	5.5	5.6	5.5
50 - 54	282,371	309,071	591,442	4.4	4.7	4.6
55 - 59	220,867	247,539	468,406	3.5	3.8	3.6
60 - 64	158,211	186,953	345,164	2.5	2.9	2.7
65 - 69	98,704	124,534	223,238	1.5	1.9	1.7
70 - 74	49,693	73,271	122,964	0.8	1.1	1.0
75 - 76	49,693	53,010	83,702	0.5	0.8	0.6
80 ~	23,223	52,923	76,146	0.4	0.8	0.6
合計	6,368,365	6,508,88	12,877,253			

出所：フィリピン国勢調査(2015年)



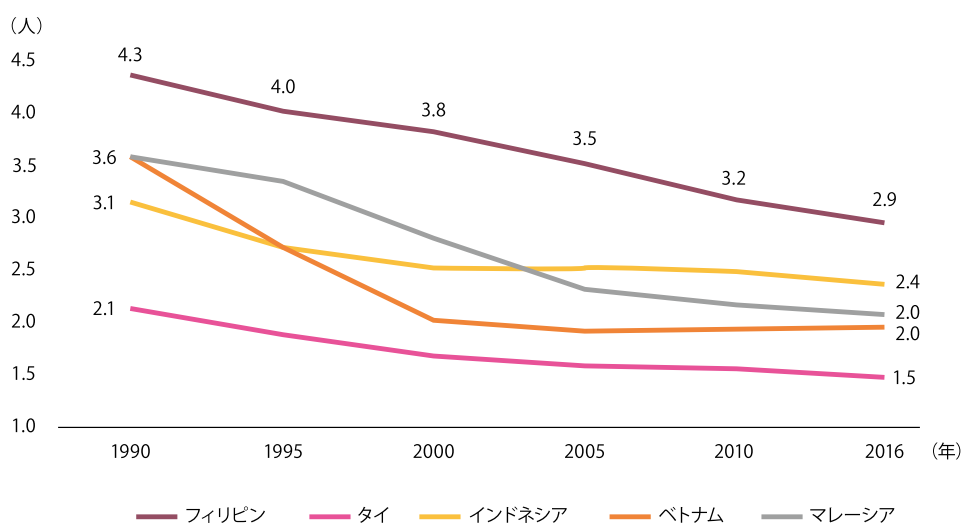
【出生率と平均寿命】

比較的高い合計特殊出生率

ASEANのうち、シンガポール以外でGDPが大きい国（インドネシア、タイ、フィリピン、マレーシア、ベトナム）の中で比較すると、フィリピンは合計特殊出生率が高い傾向が続いている。

1990年に4.3人であったフィリピンの合計特殊出生率は他国同様低下しているものの、2016年は2.9人で依然として5か国中トップである。

合計特殊出生率比較の推移

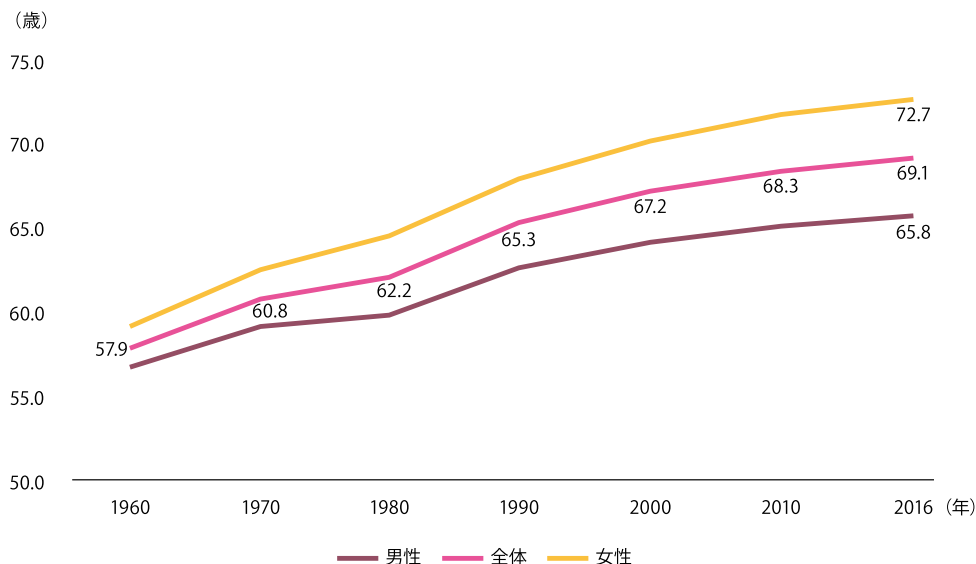


出所：世界銀行（2016年）

平均寿命

世界銀行（2016年）によると、フィリピンの平均寿命は69.1歳（男性65.8歳、女性72.7歳）である。経済成長が進む中、政府の社会保障も改善され、平均寿命も延びてきている。

平均寿命の推移



出所：世界銀行（2016年）

死因と生活習慣病のリスク

フィリピン人の死亡原因は、虚血性心疾患が12.7%で1位、がんが10.4%で2位、肺炎が9.9%で3位と続く(2016年)。上位二つの死亡原因に加え、脳血管疾患、高血圧性疾患、糖尿病が死亡原因の上位に名を連ねており、生活習慣に起因した死因も多いことがうかがえる。フィリピンではタバコが比較的安価で手に入るが、2017年に公共の場所での喫煙を禁止する大統領令が発令された。また、肥満や糖尿病など生活習慣病の予防を目的として、2018年1月には加糖飲料税が導入されるなど、政府による健康対策が講じられている。

フィリピンの死因上位10位(2016年)

順位	死因	千人	比率(%)
第1位	虚血性心疾患	74.13	12.7
第2位	がん	60.47	10.4
第3位	肺炎	57.81	9.9
第4位	脳血管疾患	56.94	9.8
第5位	高血圧性疾患	33.45	5.7
第6位	糖尿病	33.30	5.7
第7位	その他心疾患	28.64	4.9
第8位	肺結核	24.46	4.2
第9位	慢性下気道感染症	24.37	4.2
第10位	泌尿器系疾患	19.76	3.4

出所：フィリピン統計局(2016年)

生活習慣病関連指標

高血圧人口の割合(%)

	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2016年
男性	19.4	19.7	19.8	20.0	20.2	20.4
女性	15.9	16.1	16.1	16.4	16.9	17.7

出所：WHO(2016年)

過体重・肥満人口の割合(%)

		1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2016年
BMI \geq 25	男性	12.7	15.1	17.4	19.8	22.4	26.1
	女性	17.0	19.6	21.6	23.7	25.9	28.9
BMI \geq 30	男性	1.1	1.6	2.1	2.8	3.6	5.0
	女性	2.2	2.9	3.7	4.5	5.5	7.0

出所：WHO(2016年)

健康指標 周辺ASEAN諸国との比較

	① 全体に占める体重過剰人口の割合(BMI \geq 25)(%) 2014年	② 肥満人口の割合(BMI \geq 30)(%) 2014年	③ 高血圧人口の割合(%) 2015年		④ 高コレステロール人口の割合(%) 2008年
			男性	女性	
フィリピン	23.6	4.3	20.4	17.7	43.3
インドネシア	24.5	2.4	22.5	21.4	57.1
タイ	29.7	7.8	26.2	23.8	55.5
マレーシア	38.5	16.3	23.2	18.1	52.1
ベトナム	20.6	0.5	23.0	21.5	36.1

出所：JETRO「主要国・地域の健康長寿関連市場の動向調査」(2016年3月)

ヘルスケア 関連政策・制度



- ・ フィリピンの社会保障制度
- ・ フィリピンの医療施設
- ・ マニラ首都圏の健康長寿関連施設マップ



ヘルスケア 関連政策 ・制度

フィリピンの社会保障制度

フィリピンの社会保障制度には、政府関係機関によって運営されている公的医療保険、年金がある。高齢者、児童、障害者等を対象とした福祉サービスは主に地方自治体を通じて提供されている。なお、日本の介護保険制度のような仕組みは存在しない。公的医療保険は保健省 (DOH) 大臣の監督の下、DOH の附属機関である Philippine Health Insurance

Corporation (以下、フィルヘルス) が運営している。年金制度は政労使3者から構成される社会保障委員会 (Social Security Commission) が監督しており、その運営機関として社会保険機構 (Social Security System。以下、SSS) が国民に対して年金を提供している。医療保険および年金制度の対象者は、海外労働者なども含むすべての国民である。

【各制度の概要】

公的医療保険

フィルヘルスは、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの実現に向けて、全国民を公的医療保険でカバーすることを目指している。政府管轄下の機関であるフィルヘルスが医療保険の運営を行っており、2017年のフィルヘルスの統計データによると全国民の93%が公的医療保険に加入している。給付額は傷病の程度や受診する医療施設のレベルによって異なるが、2011年9月より特定の疾病や手術・治療に対して一定額を給付するケースレート制度が採用された。この制度により、予め定められた一定額が、フィルヘルスより医師や医療機関に対して償還され、償還額を超える部分が被保険者の自己負担額となる。なお、DOHの認可を受けていない医療機関では同制度の利用はできない。財源は労使双方の負担による社会保険料、フィルヘルスによる投資活動および公的支出から成り立っている。

年金保険制度

フィリピンの年金制度を司るSSSは政府管轄下の機関であり、退職年金、死亡年金、障害年金といった年金給付サービスを提供している。その他、加入者に対して傷病等による休業給付、労働災害補償プログラム、生活資金、教育資金などに対するローンサービスも提供している。財源は、労使双方負担による社会保険料、SSSによる基金の運用や貸付等の資産運用の収益から成り立っている。退職年金の給付は被保険者が60歳、鉱山労働者の場合は55歳から開始される。また、SSSの他に公務員が加入する年金機構であるGSIS (Government Service Insurance System) や軍人、警察関係者等職域別に個別の年金制度が存在する。

2017年2月22日、フィリピン政府はSSS受給者への支給額を月額1,000ペソ引き上げる法律を制定した。増額支給分の財源は、社会保険料率を上げて確保する予定だ。法律制定時の社会保険料率は

標準報酬月額11%であるが、当初これを毎年1.5%前後引き上げて、2020年までに社会保険料率を17%まで引き上げる方針であった。しかしながら、2018年3月に予定通り支給額は改訂された一方で、社会保険料率の毎年1.5%前後の引き上げは2018年10月時点で未だ実施されていない。2018年10月の地元紙ビジネスワールドによると、2019年より社会保険料の事業者負担分を8%、従業員負担分を4%に引き上げ、計12%まで保険料率を引き上げる法案 (Senate Bill 1753) が上院を通過した。この法案には、2019年から2年ごとに1%ずつ社会保険料率を引き上げ、2025年までに15%まで引き上げるといった新たなスケジュールが盛り込まれており、大統領の署名を以て、正式に法律が制定される見込みだ。



民間医療保険

フィリピンには31社の民間生命保険会社（保険委員会、2018年）が存在する。主要な保険会社の種類は下表のとおり。民間保険への加入率は、国家人口保険調査（2013年）によると、フィリピン全

体で1.6%、マニラ首都圏で2.8%である。加入率は民間保険（生命、非生命保険、健康維持機構（Health Maintenance Organization:HMO）など）の中で、1つ以上加入している国民の割合を示す。

主要な民間保険の種類

保険会社名	Sun Life Financial	AXA Philippines
商品名	SUN Fit and Well	Health MaX
保険タイプ	終身医療保険	終身医療保険
保険期間	終身（100歳まで）	終身
保険料払込期間	終身	終身
主な保障内容	<ul style="list-style-type: none"> 入院、病院や在宅でのリハビリなどの費用をカバー 病状の程度に関わらず、100以上の疾病をカバー がんの種類やステージに関わらず、最初のがんと診断を受けた際の医療費の50%分を現金にて償還 	<ul style="list-style-type: none"> 56の重大疾病（心臓発作、脳卒中、がん等）をカバー 医療費のうち100万ペソから1,000万ペソの保障（申込者の希望額や健康状況により変動） 入院、リハビリやその他の医療費が現金によって償還される 被保険者が死亡し、利用しなかった保険サービスを家族が受けることができる

出所：JETRO「ASEANにおけるヘルスケア制度・政策調査」（2018年）

ビジネス・モニター・インターナショナルのレポート（2018年）によると、堅調な経済成長と生命保険の認知向上により、フィリピンの生命保険市場は拡大している。2017年は年2,028億ペソの保険料収入であったが、2023年には4,404億

ペソまで拡大し、年平均成長率は13.8%と見込まれている。2017年の保険料収入金額をみると、Sun Lifeが15.8%で最も高い市場シェアを占めており、次いでAXA Philippinesが12.9%、BPI Philam Lifeが10%となっている。

高齢者への福祉サービス

高齢者に対する福祉政策として、2010年に高齢者法（共和国法9994号、通称：Senior Citizen Act）が施行され、60歳以

上の国民に対して公共・民間サービスの利用に対する割引、生活手当、医療費控除等のサービスが提供されている。

主な福祉サービスの種類

- ①医療サービスにかかる付加価値税（Value Added Tax）の免除と公共および民間サービスに対する割引：公共交通機関、ホテルやレストランなどの娯楽施設、プールやフィットネスセンターなどのレクリエーション施設、特定の医療サービス（ワクチン接種など）・医療器具の購入等に対して付加価値税の免除並びに20%の割引が適用される。
- ②光熱費に対する割引：月の使用上限（電気100kWh、水道30m³）を超えない場合に限り、使用料が5%割引になる。使用量が上限値を超えた場合、割引は適用されない。
- ③低所得や身寄りのない高齢者に対しては、政府が運営する病院において無償の医療サービスやワクチン接種などが受けられる。
- ④その他、高齢者の雇用、教育、社会サービス、住居、里親、公共交通機関の利用に関して政府は必要な支援を行う。
- ⑤低所得の高齢者を対象に、月額500ペソを支給。2017年、政府は280万人のために164億ペソを支出し、2018年は300万人のために193億ペソを予算計上した（2018年9月時点で、月額500ペソから1,000ペソへの給付額引き上げ法案が両院で議論されており、社会福祉開発省も支持を表明している）。

出所：JETRO「ASEANにおけるヘルスケア制度・政策調査」（2018年）

医療・介護にかかる公的扶助制度

貧困の世代間連鎖を断ち切ることを目的に2007年より条件付現金給付政策（Conditional Cash Transfer、別名：Pantawid Pamilyang Pilipino Program/4Ps）が実施されている。同政策では、人口の約20%を占める貧困層のうち、金銭的支援が必要な0歳から18歳までの児童に対して現金を給付するプログラムを実施している。対象世帯の子ども一人に対して①児童の健康向上のための費用として子ども一人当たり月額500ペソ、②教育費用として月額300ペソ（ただし、最大一世帯3人の子どもまで）が政府系銀行（Land Bank of the Philippines）の窓口または携帯電話の送金機能を通じて現金が給付される。また、2018年1月に政府が実施した税制改革に伴う物品税等の増税による物価上昇の貧困層への影響を考慮し、同月、社会福祉開発省は、貧困層約1,000万人に対して一人当たり月額200ペソを支払うことを発表した。2019年、2020年は一人当たり月額300ペソの給付が予定されている。

生活習慣病対策

2017年12月、ドゥテルテ政権は「包括的な税制改革法（共和国法第10963号、Tax Reform for Acceleration and Inclusion、通称「TRAIN」）を成立させた。その中で、国内で増加し続ける肥満や糖尿病対策を目的に、加糖飲料（Sugar Sweetened Beverages）への課税が盛り込まれた。加糖飲料への課税は、加糖飲料を米やフルーツの代替食品として日常的に摂取している貧困層に対する救済プログラムの運営財源やフィルヘルスの財源として使用される予定である。賦課額は果糖ぶどう糖液糖（異性化糖）を含む飲料1リットル当たり12ペソ、それ以外の飲料（炭酸飲料、スポーツドリンク、エナジードリンク等）は1リットル当たり6ペソである。同法は2018年1月1日より施行された。地元紙のデイリー・インクワイアーによると、2018年1月～3月の加糖飲料税は78億ペソの計画に対し、77億ペソを徴税した。物品税の中でも4番目に大きい税収として、2018年度の徴税額は520億ペソを計画しており、国民の健康対策を名目に掲げている税制度であるが、政府の収入面でも大きな役割が期待される。

児童の健康増進対策

児童の健康増進を目的とした国家的な取り組みとして、以下4つのプログラムが挙げられる。

プログラム	新生児および児童に対する基本的な免疫サービス提供に関する法 (Mandatory Infants and Children Health Immunization Act)	TSeKaPプログラム (Tamang Serbisyo para sa Kalusugan ng Pamilya)	子どもに対する栄養価の高い食品提供に関する法律 (Masustansyang Pagkain Para Sa Batang Pilipino Act)	教育省による健康計画 (Oplan Kalusugan sa DepEd)
内容	2011年より、新生児や5歳までの児童に対してワクチンによって予防可能な感染症(結核、ジフテリア、破傷風、百日咳、ポリオ、麻疹、おたふく風邪、風疹、B型肝炎、インフルエンザB型、その他DOHが指定する感染症)のワクチン接種を無料で提供(政府や地方政府などが運営する病院に限る)。	2016年より、DOH、国連児童基金 (UNICEF)、世界保健機構 (WHO)、世界銀行 (World Bank) が共同で開発したプログラム。貧困層世帯や5歳以下の子どもに対してプライマリーケアを無料で提供。同プログラムはフィルヘルスを通じて実施されており、5歳以下の子どもは血圧や胸部の診断、目、耳、歯などの検査、発達障害診断を無料で受けることができる。	2018年6月に大統領が署名した法律。社会福祉開発省と地方政府が栄養失調の3〜5歳の幼児を対象に保育所で栄養価の高い食事を一日一度、最低でも120日間提供するプログラムや、フィリピン政府、保健省、地方政府が健康診断、ワクチン接種や寄生虫の駆除を提供するプログラム等を含む。	2018年7月に教育省が制定した健康に関する計画。幼稚園児から小学6年生までの栄養不良の児童を対象に、学校での食事の提供を始め、薬物教育、リプロダクティブ・ヘルスに関する教育、学校における公衆衛生の整備、医療サービスの提供の5つを柱とした計画。

出所：JETRO「ASEANにおけるヘルスケア制度・政策調査」(2018年)

中年の健康増進対策

中年層に特化した健康増進対策はほとんどないが、保健省 (DOH) 傘下の研究機関である国立食品栄養研究所 (Food and Nutrition Research Institute : FNRI) は科学技術省 (Department of Science and Technology : DOST) と連携し、各年齢層にとって理想とされる食事量や食材を紹介するガイドラインを定期的に公表している (ガイドライン名 : Pinggang Pinoy)。また 2017 年 7 月、大統領令 (Executive Order 26) によりタバコの取り締まりが強化され、指定された喫煙所以外の場所での喫煙が禁止された。またタバコ販売店以外の場所でのタバコ広告が禁止され、新たに建設される建物では喫煙所の設置は一箇所のみと限定された。指定喫煙場所には、喫煙による健康への影響を示す写真やポスター等の表示が義務付けられている。さらに 2018 年 6 月には、フィリピン人の精神的健康を確立する目的で、最小の地方自治体単位であるバラングイの保健所等にて精神的健康に関するサービスを提供することを定めた共和国法 11036 号が制定された。心理学、精神医学、神経学など関連する理論に基づく心理療法で、例えば、統合失調症の外来患者には、精神安定剤、抗うつ薬、抗精神病薬を提供する。その他、大衆向けに精神的健康についての啓発や教育活動も行っている。また、精神的健康の医療施設の充実や精神的健康に関する教育を学校や職場で普及する規定も含まれている。

女性の健康増進対策

女性に対する健康増進政策に関連するものとして、2012年に「責任ある育児とリプロダクティブ・ヘルス法 (共和国法 10354号)」が施行された。同法は主に貧困世帯の女性を対象としており、望まない妊娠や出産時における死亡のリスクから女性を保護すること、および健康な家族計画を推進することを目的としている。同法は以下3つの柱で成り立つ。

主なリプロダクティブ・ヘルス法の3つの柱

1.	2.	3.
安全な出産施設の整備：すべての市や地方自治体は安全で適切な出産を促進するために、助産師 (または出産に関するノウハウを持った者) を雇用しなければならない。また、緊急分娩を受け入れる適切な医療施設の整備と専門家を確保しなければならない。	望まない妊娠の回避：政府や地方政府が運営する医療機関にて避妊具や避妊ピルを無償で配布する。また、中絶を行った女性に対して、中絶後のケアに関する研修を実施する。	リプロダクティブ・ヘルス教育の推進：公教育において、適正な年齢に達した児童に対して性教育を実施する。また、コミュニティ内のボランティアワーカーに対してリプロダクティブ・ヘルスに関する研修を受講させる。

出所：JETRO「ASEANにおけるヘルスケア制度・政策調査」(2018年)

2003年、大統領府宣言第368号 (Proclamation No.368, s.2003) によって、毎年5月が子宮頸がん啓発月と定められ、同年5月に子宮頸がんの無料検診サービスが保健省管轄の病院で始まった。地元紙のビジネスミラーによると、2017年、政府は6.5億ペソの予算でマニラ首都圏の学生約72万人にワクチン接種を無料提供した。子宮頸がんはフィリピン人のがんによる死亡要因第3位で、適切な治療や予防により発症を防げる病気として政府も力を入れている。また、2018年9月、母親が妊娠してから子どもが2歳の誕生日を迎えるまでの1,000日間にわたり、母子の健康を支援するための「母子の健康と栄養摂取に関する法律 (Kalusugan at Nutrisyon ng Mag-Nanay Act)」が制定された。出産前の母親への定期健診やサプリメント提供による栄養状態の改善、フィルヘルスの登録、出産後の授乳支援、母子経過観察、栄養価の高い食事の提供等を規定する。また、2018年10月には、出産休暇の延長に関する法律が制定された。従来は自然分娩60日、帝王切開78日の出産休暇が定められていたが、公務員・民間企業勤務者を対象に有給の出産休暇を105日まで、希望すれば追加で無給の出産休暇を30日延長できるようになった。

フィリピンの医療施設

【医療施設の管理】

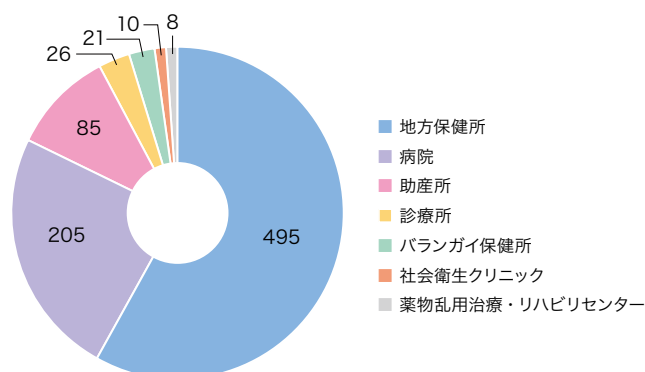
フィリピンの医療機関は、保健省の監督のもと全国医療施設登録簿 (National Health Facility Registry v2.0) によって管理されている。1990年代初頭に、全国の医療機関を一括で管理する目的で医療機関管理システムが作られたが、新たに設立された病院のシステムへの登録作業に遅延が発生し、システムが機能していなかった。2011年にシステムを刷新し、誰でもオンライン上

で全国の医療機関の最新情報を閲覧できるようになった。閲覧可能な情報は、医療施設名、医療施設の種類、公立・私立の運営主体、所在地、電話番号、代表者である。保健省が一般に公開するフィリピン最大の医療機関データベースとして、病院、診療所、バラングイ保健所等の詳細な情報を調べるために活用されている。

【医療施設の種類】

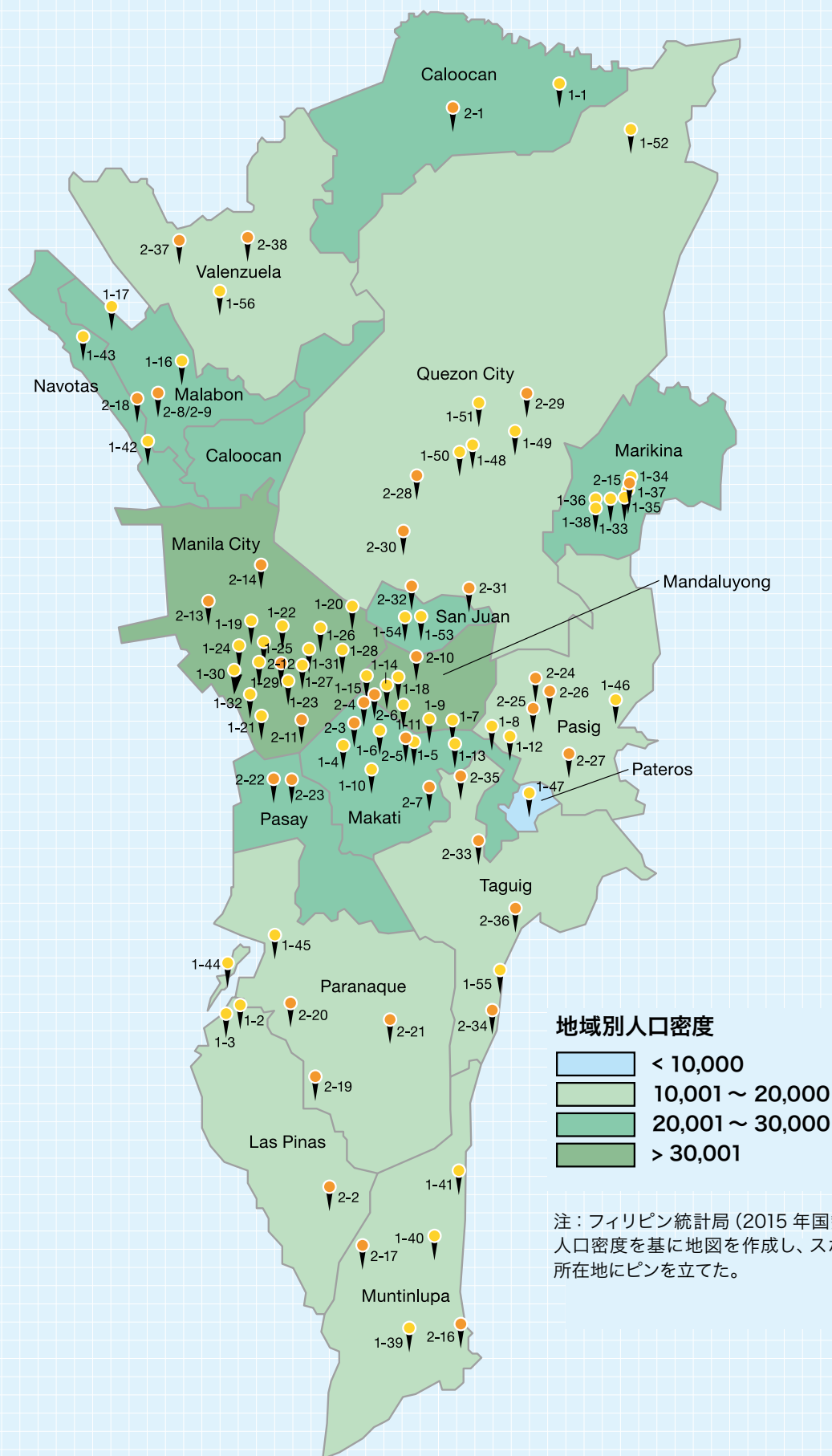
医療施設の種類の種類	概要	代表的な施設	左記代表的な施設の特徴
病院	入院患者を受け入れるベッドなどの医療機器を有し、診療や治療等医療サービスを提供する医療施設。マニラ首都圏には公立・私立共に存在する。	St Luke's Medical Center (所在地: ケソン市、タギッグ市)	フィリピンを代表する医療機関の一つ。民間病院で充実した設備とサービスに定評がある。平均年間入院患者は60,321人、平均年間外来診療は270万人に上る。
診療所	けが人や病人に対する救命医療や、妊婦や新生児の診療など、特定分野に特化した医療サービスを提供する医療施設。マニラ首都圏には公立・私立共に存在する。	Callejo Medical Clinic (所在地: ラスピダス市)	薬の処方箋、一般的な医療診断、皮膚科、産科、救急救命医療や手術などのサービスを提供する診療所。一般的な診療を500ペソからの費用で提供している。
地方保健所	市民に対して基本的な診療、病気予防、健康促進、治療、リハビリサービスを提供する市運営の医療施設。	VALENZUELA HEALTH CENTER (所在地: マカティ市)	出産前の健康診断、歯科、ワクチン接種等を無料で提供する医療施設。原則、市の住民のみ医療サービスを受診可能。
バラングイ保健所	バラングイの保健所として救急救命医療、産科を含む一般的な診療を提供する医療施設。マニラ首都圏には公立のみ存在する。	AYALA-ALABANG HEALTH CENTER (所在地: モンテンルバ市)	産科、歯科、眼科を含む一般的な診療、診断を提供。全てサービスは無料。
社会衛生クリニック	性感染症患者への医療診断、治療、カウンセリングサービスを提供する医療施設。マニラ首都圏には公立のみ存在する。	MANILA SOCIAL HYGIENE CLINIC (所在地: マニラ市)	無料匿名HIV診断、HIVのウイルスの働きを弱め伝播を防ぐ抗レトロウイルス治療、眼底検査、皮膚科診療などを提供する公的医療機関。無償診断以外の各種サービスは症状に応じて医師が判断し治療費を請求する。
助産所	産前、産後のケア、自然分娩、新生児の診断などの助産サービスを提供する医療施設。新生児の遺伝性の病気の検診や一般的な検診なども担い、家族計画や健康についての啓発も行う。マニラ首都圏には公立・私立共に存在する。	TRINIDAD MIDWIFERY LYING IN SERVICES (所在地: ケソン市)	産前、産後の健康診断、新生児検診は無料で提供している。自然分娩は、フィルヘルス加入者は1,000ペソ、非加入者は8,000ペソ。
薬物乱用治療・リハビリセンター	入院患者を受け入れるベッドなどの医療機器を有し、診療や治療等医療サービスを提供する医療施設。マニラ首都圏には公立・私立共に存在する。	Bridges of Hope (所在地: バラニャーケ市、ケソン市)	薬物中毒者にリハビリサービスを提供。一般的に入所者は、1年間心理療法、カウンセリング、精神医学治療等の治療を受ける。入所費用は月額30,000ペソで、食事、住居、24時間看護師の診療を含む。

マニラ首都圏の種類別医療施設数 (2018年9月時点)



出所: 全国医療施設登録簿 (National Health Facility Registry v2.0) (2018年9月)

【マニラ首都圏の健康長寿関連施設マップ】





公園（順不同）		
1-1 Caloocan Nature Park	1-32 Plaza Rajah Sulayman	2-7 Manila Polo Club
1-2 Plaza Rizal	1-33 Chinese Pagoda	2-8 Oreta Sports Complex
1-3 Plaza Quezon	1-34 Cityhood Park	2-9 Malabon City Sports Center
1-4 Buendia Park	1-35 Freedom Park	2-10 Evangelista Sports Arena
1-5 EDSA/Buendia Park	1-36 Marikina River Park	2-11 Rizal Memorial Sports Complex
1-6 Freedom Park	1-37 Marikina Sports Park	2-12 San Andres Sports Complex
1-7 Guadalupe Nuevo Park	1-38 Roman Garden	2-13 Delpan Sports Complex
1-8 Guadalupe Nuevo Linear Park	1-39 Sunken Garden	2-14 Dapitan Sports Complex
1-9 Guadalupe Viejo Park	1-40 Liwasan ng mga Bayani	2-15 Marikina Sports Center
1-10 Magallanes Interchange Park	1-41 Sucat People's Park	2-16 Muntinlupa Sports Complex
1-11 Makati DES Linear Park	1-42 Navotas Centennial Park	2-17 Alabang Country Club
1-12 Makati Parks and Garden	1-43 Tanza Park	2-18 Navotas Sports Complex
1-13 Pinagkaisahan Underpass Park	1-44 Las Piñas-Parañaque Critical Habitat and Ecotourism Area	2-19 The Village Sports Club
1-14 Poblacion Park	1-45 Don Galo Park	2-20 Olivarez Sports Center
1-15 Valenzuela Linear Park	1-46 Pasig Rainforest Park	2-21 Paranaque Sports Complex
1-16 Malabon People's Park	1-47 Plaza de Borja	2-22 Cuneta Astrodome
1-17 Plaza Hulong Duhat	1-48 Quezon Memorial Circle	2-23 Pasay City Sports Complex
1-18 Amado T. Reyes Park	1-49 Balara Filters Park	2-24 Philsports Complex
1-19 Arroceros Forest Park	1-50 Ninoy Aquino Parks and Wildlife Center	2-25 Ynares Sports Arena
1-20 Bacood Park	1-51 University of the Philippines Arboretum	2-26 Valle Verde Country Club
1-21 Baywalk	1-52 La Mesa Eco Park	2-27 Pasig Sports Complex
1-22 Malacanang Park	1-53 Pinaglabanan Park	2-28 Amoranto Sports Complex
1-23 Manila Zoo	1-54 San Juan Mini Park	2-29 Celebrity Sports Club
1-24 Mehan Garden	1-55 Taguig Lakefront Community Park	2-30 Quezon City Sports Club
1-25 Paco Park	1-56 Valenzuela People's Park	2-31 Club Filipino
1-26 Pandacan Linear Park	スポーツ施設（順不同）	2-32 Filoil Flying V Arena
1-27 Paraiso ng Batang Maynila (Paradise of Manila's Youth)	2-1 Caloocan Sports Complex	2-33 McKinley Hill Stadium
1-28 Philippines-Thailand Friendship Circle	2-2 Aguilar Sports Complex	2-34 Cayetano Sports Complex
1-29 Remedios Circle	2-3 Makati Coliseum	2-35 Kerry Sports Manila
1-30 Rizal Park	2-4 Carmona Sports Complex	2-36 Hagonoy Sports Complex
1-31 Plaza Dilao	2-5 Makati Sports Club	2-37 Valenzuela City Astrodome
	2-6 Rockwell Club	2-38 Bahayang Pag-asa Sports Complex



各ヘルスケア 分野の特徴と傾向

- ・医療
- ・介護
- ・予防・健康管理
- ・健康食品・サプリメント
- ・スポーツ・レクリエーション
- ・フィットネス



ヘルスケア分野の 特徴と傾向

医療

【医療市場】

ビジネス・モニター・インターナショナルのレポート（2018年8月現在、以下、ピーエムアイ）によると、フィリピンのヘルスケア市場は2017年にはGDPの4.6%に当たる155億米ドルで、2022年には221億米ドルに到達すると予想される。一人当たりの年間ヘルスケア関連支出は、2017年の147.7米ドルに対し、2022年には186.8米ドルに増加する見込みだ。2017年の民間のヘルスケア関連支出は102億米ドルで全体の65.5%を占め、一方で政府のヘルスケア関連支出は53億米ドルで全体の34.5%を占めた。2020年までに全国民を公的医療保険でカバーすることを目指すユニバーサル・ヘルス・カバレッジの導入を目標に、政府のヘルスケア関連支出も着実に増えている。2016年時点で、フィリピン全土の病院数は1,885でベッド数は108,875。公立の病院数が776であるのに対し、民間病院数は1,109となっている。

【医薬品市場】

死因上位に虚血性心疾患（1位）、高血圧性疾患（5位）、糖尿病（6位）など生活習慣病が挙がるフィリピンにおいて、医薬品市場も拡大している。ピーエムアイによると、2017年の医薬品市場は34億米ドルで、ヘルスケア市場全体の22.2%を占めた。2017年の一人当たりの医薬品支出は32.7米ドルである。ジェネリック医薬品が医薬品市場の45.4%を占め、17億米ドルの規模を誇る。ファイザー、ノバルティスファーマ、グラクソ・スミスクラインなど欧米の大手製薬メーカーがブランドを活かして市場を席巻している。一方、フィリピンの地場企業はジェネリック医薬品に注力しており、地場企業ユニラボ（Unilab）の製品は、ジェネリック医薬品市場の8割を占める。

【医療機器市場】

2020年までに国民皆保険を目指すフィリピン政府の計画が追い風となり、フィリピンの医療機器市場は堅調に伸びると予想される。ピーエムアイによると、2017年の医療機器市場は5億米ドルだが、今後5年間は年率8.5%で成長し、2022年には7.6億米ドルに到達すると予想されている。公立病院を中心に、老朽化した医療設備の近代化、民間医療機関の発展、メディカルツーリズムの勃興も、医療機器市場の成長を支えていくと予想される。医療機器は90%を輸入に頼っており、フィリピンへの医療機器輸出の上位3ヶ国は順に中国、米国、シンガポールである。市場に参入するためには、現地の販売代理店との繋がりが不可欠で、医療機器を扱う販売代理店は食品薬品管理局（FDA）への登録が必要である。医療機器の生産拠点としてフィリピンは発達しておらず、歯科材料や医療用品のメーカーが21社登録されているだけである。



INTERVIEW

TAISHO PHARMACEUTICALS (PHILIPPINES), INC.



インタビューに応じる姜社長

フィリピンにおける事業について

リポビタンに代表されるエナジードリンクと、OTC（一般用）医薬品を中心とした医薬品事業を展開しています。2018年1月にフィリピン政府は、エナジードリンク1リットル当たり6ペソの加糖飲料税を導入しました。こうした健康意識が高まる中で、製薬メーカーの当社は栄養補給、疲労回復のコンセプトを掲げ、フィリピンにおけるビン容器エナジードリンク市場で4割のシェアを有しています。医薬品事業では、小児性解熱鎮痛剤として長年親しまれているTEMPRA、子ども向け経口補水液のVIVALYTE、さらに、リウマチによる関節炎の鎮痛剤のFlanaxという製品があります。また、乗り物酔い止めのBonamineは、フィリピン市場で90%以上のマーケットシェアを占めています。

フィリピンの市場動向について

5年前まではエナジードリンク市場は年率15%~20%で伸びていました。しかし直近5年間でほとんど伸びておらず、年間成長率は平均1%~2%程度です。最近のフィリピン人は健康志向の高まりもあり、砂糖を多く含むエナジードリンクよりもビタミン入りの飲料を好む傾向があります。美容目的のコラーゲンドリンクや、腸内環境の健康を考えた乳酸菌飲料が流行っているのも同様の背景があります。OTC医薬品市場は、経済成長率の伸びに伴い、数量、金額共に増加しています。

医薬品市場はGDP成長率を上回るペースで伸びていて、過去5年間の平均成長率は年率7%~8%です。

フィリピンでの製品の反応について

小児性解熱鎮痛剤TEMPRAは、市場価格より高いプレミアム価格で販売されています。競合品の中にはその価格の3分の1、ないし4分の1の値段で販売されているものもありますが、価格競争に陥ることなく、低所得層からも購入されています。TEMPRAは幅広い消費者層に信頼されており、子どもが病気の時に信頼できる製品を使いたいという母親の想いもあって、高いマーケットシェアを獲得しています。ノーシェイクフォーミュラという均一に溶ける技術を使用しており、質が良いことも市場から受け入れられている理由の一つです。

製品の宣伝について

製品ごとの販売量や顧客層によって、宣伝方法を変えています。例えば、乗り物酔いの薬のBonamineは、バスの利用者をターゲットとし、バス停に広告を掲載しています。またフィリピンの特徴として、医者がOTC医薬品を患者に紹介する場合もあるので、当社のMRが小児科医に営業を行い、小児科医からTEMPRAを患者の母親に説明してもらうようにしています。

フィリピンでのビジネスの課題や難しい点について

医薬品に関しては、新薬販売に必要な手続きに時間がかかることが課題に挙げられます。また、大手地場企業が、ほぼ全ての医薬品カテゴリーに製品を揃えていて市場を席巻しています。法律上日本の医薬品をそのままフィリピンに導入することはできません。当社もリポビタンの輸入販売からフィリピンの事業を始めて、インドネシアでのOTC事業の買収を経て東南アジアでの医薬品事業を築き上げ、現在エナジードリンクと医薬品の両輪でビジネスをするまでになりました。今後は、ローライゼーションが必要だと考えており、駐在員を中心に現地法人を運営するのではなく、文化や商習慣に精通した現地の社員を育てて事業を進めることが大切だと考えています。

フィリピンへの進出を考えている企業へのアドバイス

フィリピン人の価値観や文化を理解した上で、それに合致する製品を提供することが大切です。地場企業も力を付けブランド力も向上しており、もはや日本製品だからと言って売れる時代ではありません。現在はフィリピン人の価値観も細分化されているので、時間はかかりますが、現地で色々な経験を積みフィリピン人の価値観や文化を理解することが必要です。また、GDP等経済指標を見て、フィリピンの現在を日本の過去と比較して発展過程を歴史に照らし合わせて物事を判断する人もいますが、過去の事例が当てはまらない場合もあります。例えば、携帯電話の普及度合いを例にとっても、現在のフィリピンと同程度の経済水準にあった当時の日本とは異なり、現在はSNSの普及が著しく、宣伝方法も異なります。そのような異なる部分をしっかりと理解した上で、事業を推進することが大切です。

介護

【フィリピンにおける介護市場】

フィリピンの介護市場

フィリピンの介護士資格保有者数など、介護士に関わる公式なデータは公表されておらず、介護市場の規制も整備されていないのが現状である。介護士の資格は、技術教育技能開発庁 (Technical Education and Skills Development Authority, TESDA) が管理する国家資格の介護士 NC II で、TESDA 認定の教育機関で一定期間の研修を受け、試験に合格した場合に授与される。2017 年から国会で審議中の介護福祉法 (Caregivers Welfare Act) が制定されれば、介護市場の最低賃金が保証されるなど介護士の権利も保証され状況は変わると予想される。家族の繋がりの強いフィリピンでは、第三者の介護士より血縁関

係のある家族が高齢者の世話をするのが一般的である。特に地方では大家族で生活することも多く、その傾向が顕著である。しかし、都市部は経済的に余裕があり労働時間の自由度が低いため第三者に助けを求める風土が形成されつつあり、介護施設や介護士派遣サービスなどが増えている。Facebook などのソーシャルメディアを通してフリーランス介護士が、対応可能な時間、時給を設定して活動する場面も見受けられる。日本など海外からのフィリピン人介護士派遣の需要も増えており、今後介護士の需給バランスの動向に注視が必要だ。

代表的な民間介護サービス提供者と利用料金

施設名	特徴	サービス料金
Home Health Care (所在地: ケソン市)	訪問介護と自社の介護施設での介護サービスを行う。高齢者以外に障がい者もサービスの対象としている。その他、医療関係者や大衆向けへの研修プログラムも提供している。	訪問介護の場合、1日12時間で1,300~1,400ペソ。1カ月35,000~37,000ペソ。 介護施設入居の場合、部屋の設備条件等により1カ月40,000~60,000ペソ。
Nightingale Nursing Services (所在地: マカティ市)	2004年に看護師・介護士の人材派遣業を開始。マニラとセブの支店を合わせて介護士250人と看護師220人の登録者を有する。	介護士の経験年数により、1日12時間当たりのサービス料金が異なる。新卒の介護士は900ペソ。就業経験が2年以上ある介護士、または、看護師資格を持たない看護学部修了者は、1,200ペソでサービスを提供している。
Caregivers of the Philippines Association, Inc. (所在地: マニラ市)	訪問介護サービスを提供。介護士養成のためのTESDA認定の教育機関でもある。	1日8時間で512ペソ、12時間で832ペソ。



INTERVIEW

Nightingale Nursing Services

介護士派遣事業を担うリーディングカンパニー

Nightingale Nursing Services について

看護師、介護士、助産師の人材派遣会社です。当社の登録者とは雇用契約がありません。例えるならば、巡業公演をする有名人のマネージャーです。登録者のためにマーケティングを行い、サービスを必要とする人を探し、その人のもとへ派遣します。休日出勤時の割り増し賃金は提供しますが、登録者とはフリーランス契約をしています。例えば、富裕層が多く住むマニラ首都圏南部のアラバンの患者さんへの派遣の仕事を紹介しても、介護士が自分の都合により断ることができるということです。その場合、当社は別の仕事をその介護士に紹介します。当社は介護施設を持たず、自宅か病院への派遣業を行っています。オフィスはマニラ支社に加えて、3年目になるセブ支社があります。

設立経緯について

創業メンバーは Makati Medical Center の看護師で、当初はその病院の一部署として派遣業を行っていました。他の病院とも連携してサービスの規模を拡げるため、当時のディレクターから起業のアドバイスを受けながら、2004年に証券取引委員会(SEC)への登録を経て独立し、株式会社となりました。創業メンバーは看護師のみでコンドミニアムの一室を借りて仕事をしていましたが、一歩ずつ事業を継続してきた結果、現在の事務所を構えるまでになりました。2018年より創業者で看護師の代表取締役社長から代表権を引き継ぐ形で、ファイナンスや企業経営の経験のあるベニス社長が就任しました。看護師や介護士の管理はバンジ副社長が担当し、それ以外のオペレーションをベニス社長が管理する組織体制です。

登録介護士等について

マニラ支店、セブ支店を合わせて、介護士を250人、看護師を220人抱えています。介護士は、介護士 NC II という資格を保持している人を指します。介護士は6カ月の研修と試験に合格すれば資格を取得できます。看護師になるには4年～5年、助産師には2年の勉強が必要です。

どのように介護士を集めますか

口コミと医者や病院からの紹介が中心です。口コミによって、オンラインでの登録も最近では増えています。一方で、最近5年間は各病院が看護師派遣のための部署を設立したり、他の代理店が立ち上がったりと人材獲得競争が激しくなっています。

す。当社はマニラでは Asian Hospital と Chinese General Hospital、セブでは Chong Hua hospital から認定されている団体です。病院以外にもパートナー先の製薬会社からの要請に応じて、看護師を派遣するケースもあります。

介護士の在籍状況について

介護士の登録者は増えています。就業経験がある介護士ではなく、6カ月の勉強を経て試験に合格した新卒の介護士登録者が大半です。彼らは就業経験を求めて当社に登録するケースが多く、平均在籍期間は2年程度です。よって、もっと長く働いてもらえるように、在籍期間5年～6年の登録者と経営者で人材確保戦略を練っています。フィリピンの看護師は英語が堪能で、高い賃金を求めて海外に出稼ぎに出る傾向が強く、短期在籍者は、人材派遣会社を海外の職探しの準備期間として利用することが多いです。一方で長期の在籍者は、家族と一緒に生活することを優先して国内就労を希望する方が多く、海外に出て行く心配も少ないです。また、賃金も重要な要素です。病院でもらえる給料より当社が支払う給料が高いことを理由に登録する人たちもいます。

介護士の勤務形態について

派遣登録した介護士には、一年間を基本契約期間として登録をお願いしていますが、雇用契約ではなく柔軟な派遣契約を結んでいるので、一年以内に離れてしまっても問題ありません。介護士の勤務形態は多様で、最短で1日～2日だけの短期勤務の場合もあれば、週単位で数日勤務、午前午後でシフトを組んで3人で交代する勤務など実に様々です。

サービスの利用者について

サービス利用者の男女比は、男性4割、女性6割です。利用者の中には当社のサービスを10年以上利用いただいている方もいます。新規の利用者は、Facebook や Google などオンラインでの申し込みも多く、当社の繋がりのある病院の医者や主任看護師から紹介してもらった場合もあります。

介護市場の状況について

介護市場は成長しています。6カ月で介護士になれることもあり、人材の不足している看護師市場とは異なり新卒の介護士を集めやすいです。しかし、新卒の介護士を派遣してクレームをいただくことが多くなり、当社も昨年より実務経験のある介護士のみ募集する方針に転換しまし



会社のロゴ

た。その結果、応募してくる介護士がいなくなり、月に1件～2件程度就業経験のある介護士が、当社を尋ねる程度になっています。介護サービスを受ける方との関係も当社の事業には大切なので、必要とされる人材を確保することが重要です。

成功要因について

手ごろなサービスに加えて、実務経験のある看護師によって事業運営されていることだと思います。企業理念も従業員の士気向上には大切で、日々人を救い、助けることに重きを置いてきたことで、何年も事業が続いています。さらに、看護師のみで事業運営されていた頃には手薄になっていたカスタマーサービスをベニス社長直轄で管理している点に加え、バンジ副社長の携帯番号を介護士に伝えてあり、何かあった際にすぐに連絡を取れる体制を取ることで、サービスの質向上を図っています。

介護サービスの展望について

セブでは親戚や子どもの数が多く家族の規模も大きい上に、家族間の繋がりも都会のマニラに比べると強いので介護士はあまり必要とされません。一方、マニラでは多くの高齢者が介護士のサービスを受けています。介護ビジネスは、一見家族の繋がり強いフィリピンにおいては合わないと考えられますが、経済的に比較的豊かなマニラ首都圏では、共働きで高齢者を抱えた世帯からの需要があり、持続可能だと考えています。



(左) バンジ副社長 / (右) ベニス社長

【予防・健康管理に関する政府の方針】

糖尿病対策としての加糖飲料への課税

2018年1月1日より、国内で増加し続ける肥満や糖尿病対策を目的に、果糖ぶどう糖液糖（異性化糖）を含む飲料には1リットル当たり12ペソ、それ以外の飲料（炭酸飲料、スポーツドリンク、エナジードリンク等）は1リットル当たり6ペソ加糖飲料税が導入された。これによって国民の健康増進の観点から一定の成果が期待される。

課税によるビジネス上の影響

一方で加糖飲料税の課税対象となった製品を販売する飲料メーカーにとっては大きな打撃だ。フィリピンの飲料メーカー大手のコカ・コーラ FEMSA・フィリピンは新税制が導入された翌月の2018年2月には従業員のリストラを表明。その後8月には親会社で51%の株式を所有するコカ・コーラ FEMSAが所有している全株式を米コカ・コーラへ売却することを表明した。大手飲料メーカーによると、ミネラルウォーターを除いて2018年の飲料市場の販売量は前年比割れで、課税の影響により負の影響が出ているのは明らかとのことである。課税の正式発表が2017年12月になされ、翌月2018年1月には法律が施行されたが、課税対象の適用時期、税金の納入手続きの発表が遅れたことで実務の面でも混乱が生じた。

学校における健康な食生活の推進

教育省は2017年3月、「学校や教育省内における健康な食料品に関する指針 (POLICY AND GUIDELINES ON HEALTHY FOOD AND BEVERAGE CHOICES IN SCHOOLS AND IN DEPED OFFICES)」を発表した。高脂肪、高砂糖、高塩分の飲食物の提供を避け、体に良い飲食物を提供することで学生の食生活を改善する試みだ。こうした国の政策に加え、ケソン市では、学校内やその近辺での栄養価のバランスを欠く調理済み食品と砂糖飲料の提供を禁止する「2017ケソン市低栄養価・高糖分食品禁止法令 (QC Anti-Junk Food and Sugary Drinks Ordinance of 2017)」を制定した。学校のカフェテリアと学校から100メートル圏にある店では、加工されていない飲食物のみ販売を許可し、違反すると罰金が課される。初めての違反の場合1,000ペソ、2回目は2,000ペソ、3回目は5,000ペソが課せられ、最悪の場合は営業停止になることもある。地元紙のデイリー・インクワイアーによると、2018年6月の時点で2件の学校が条例違反として罰金を課せられている。



INTERVIEW

Aramesh Wellness

ペルシャをモチーフにした新しいタイプの総合スパ

Aramesh Wellness について

一つの店舗でデンタルケア、スパ、スキンケアまで提供するワンストップの健康施設です。2010年にデンタルクリニックとして事業を開始しました。翌年、治療だけでなく予防医学の観点から体をケアする新しいサービスがあれば良いと考え、スパ事業も開始。さらに2018年初めには、スキンケアサービスも新たに開始しました。デンタル事業では一般的な治療から、矯正、インプラントなどを提供し、スパ事業では指圧やスウェディッシュマッサージなどのマッサージを提供しています。スキンケアでは、美容、脱毛、レーザー治療など手術を伴わないスキンケアサービスを提供しています。早ければ2018年内に、2店舗目を開店予定です。

ワンストップサービスを 提供することについて

デンタルケアは怖いイメージを持たれがちですが、快適な空間と心地よいイメージを持つスパを同じ店舗に組み入れることでその怖いイメージを払拭し、多くの顧客を獲得することに成功しました。受付を同じにすることで、リラックスした雰囲気を提供しています。二つの一見全く異なるサービスがこのマニラで受け入れられている理由の一つは、マニラの交通渋滞が酷い点もあると思います。デンタルケアとフェイシャルエステを同時に受けようと思っても、マニラでは二つの場所を渋滞のため長い時間をかけて移動しなければなりません。しかし、当社であれば一度に両方のサービスを受けることが可能です。

顧客層について

性別は男女同じくらいの割合、年齢は25歳～45歳の方が大部分で、予想以上に男性の顧客が多く訪れています。顧客の中には、デンタルケアとスキンケアの両方を受ける人もいます。顧客の生活圏にできるだけ近い場所でビジネスをすることが大切です。フィリピン人は歯の治療をするのに、わざわざ遠出しようとはせず、近所で済ませる傾向があります。また、

フィリピンで唯一ペルシャをモチーフにしているため、その珍しさからか旅行者も多く訪れます。旅行者の国籍としては、中東の人が多いわけではなく、もっぱら中国や韓国などアジア人の旅行者が多数を占めます。さらに、在フィリピンの海外駐在員も多く訪れています。

ペルシャをモチーフとした独自性

恐らくペルシャをモチーフにしたスパは当社以外になく、2014年の上半期に多くのテレビや新聞に取り上げられ、顧客認知度が高まり、顧客数が増えました。ペルシャをモチーフにした理由は、創業者である私がペルシャ人とフィリピン人のハーフだからです。

どのように広告をしているか？

フィリピンを訪れる海外旅行者への広告としてトリップアドバイザーを、フィリピンで生活する人への広告としてGoogleを使用しています。共に高い口コミ評価を得ていて、トリップアドバイザーのスパランキングでも1位か2位となっています。WEB検索の上位に食い込むことで、他者の評価を参考にする旅行者層の獲得につながっています。

成功している要因

まずはペルシャをモチーフにした独自のサービスを提供していることです。また、様々なサービスを提供することで、わざわざ色々な場所に出向かなくて済む利便性を顧客に提供しています。さらに、サービスの質を維持するため、顧客のフィードバックを確認し、もし不満などがあればすぐに解決するようにしています。セラピストのトレーニングも欠かせません。実際、すべてのスタッフがテストを受け、セラピストの資格を持っています。

市場の成長率について

業界全体や個々の分野別データはありませんが、自社で行った調査では、デンタルケアとスパの事業に関して、年率10%～15%で成長しています。経済水準も上がり人々の健康関連支出が増えてきたこと



受付を背景に(右) ファーヘッド COO / (左) ファー CFO

で、今後更なるビジネスチャンスもあると思います。

サービス料金について

サービス料金は、業界平均より高いと思います。自社の調査では、業界平均より高い値段でも、マッサージの質、寛げる空間等、価格に見合った質の高いサービスという評価を市場から受けています。デンタルケアについては、まだ値段を上げられる余地があると認識しています。

従業員の確保について

従業員の定着率としては、就職後6カ月から1年以内に半数程度辞める傾向があります。一方で、創業以来、スパ事業に携わり続け、現在ジェネラルマネージャーにまでなっている人もいます。十分な給料と福利厚生があれば、会社に残ることを好む人もいます。

事業許可書の取得手続きについて

私の経験に基づくと、マカティ市ではデンタル事業、スキンケア事業、スパ事業とそれぞれ許可書が異なります。デンタルクリニックであれば歯科医師が、スキンケアクリニックであれば皮膚科医が、地方政府より事業許可書を取得する必要があります。必要書類が揃っていれば、マカティ市の地方政府への申請手続きはスムーズに行われます。建物のオーナーによって建物の使用許可書が準備されていない場合、事業許可書を得るのに時間がかかります。水回りや害虫駆除など様々なテストを経て建物の使用許可書が発行されるからです。マカティ市の地方政府は平日に加え土曜日でも事業許可書の手続き処理の対応をしているので、公共サービスもかなり良くなってきていると思います。



デンタルクリニック



スパルーム



スキンケアルーム

INTERVIEW

カ・ラ・ダ ファクトリー

日本発のカラダと健康の総合サロン



(左) 成瀬様 (フィリピン地区責任者) / (中央) ハナジェネラルマネージャー / (右) 西尾様

カ・ラ・ダ ファクトリーについて

カ・ラ・ダ ファクトリーフィリピンは、ボディマッサージ、足裏・足つぼのマッサージをするフットリートメント、そしてAPバランスという整体・骨盤調整の3つのサービスを一つの店舗で提供できる総合整体サロンです。2018年9月時点で17店舗を構え、年内に更なる新規出店を予定しています。店舗はマニラ首都圏にあり、お客様が徒歩で立ち寄れる場所でありたいと考え、ほぼ全ての店舗がショッピングモール内に位置しています。

進出の経緯は？

2010年、フランチャイズパートナーのフィリピン人オーナーの知人が、台湾で受けたカ・ラ・ダ ファクトリーの施術に感銘し、オーナーに感想を伝えたところ、フィリピンにもサービスを導入したいという提案が日本のカ・ラ・ダ ファクトリーに入ったのが始まりです。オーナーは、フィリピンには同様のサービスがなく、フィリピン人も整体・骨盤調整のニーズがあると考えていました。翌年の2011年には、カ・ラ・ダ ファクトリーとしても初めての海外フランチャイズ契約を締結し、2012年にフィリピンで最初の店舗を開きました。当時、フィリピンで日本のサービスを提供するために、フィリピン人を日本に呼び、2カ月間かけて施術の技術に加え日本式のホスピタリティまで教育し、フィリピン事業の礎を築きました。

どのように事業を拡大してきましたか？

最近のフィリピン人の中には、運動や正しい食事を通して健康的な生活を送り、寿命を長くしたいという意識が浸透しつ

てあります。そうした流れの中で、体調を良くしたり、姿勢を整えたり、筋肉のバランスを取ったりするサービスはフィリピン人にとって必要なはず。新しいものがあれば試してみたいというフィリピン人の特徴も、私たちのサービスが受け入れられるきっかけになっているかもしれません。オフィスですべてパソコンを使っている人が肩こりの解消を目的に来店されたり、ハイヒールをずっと履いている女性が脚のむくみを取るためにお越しいただいたりするように、お客様からのニーズに耳を傾け、需要がありそうな場所を推定して店舗を構え事業を上げてきました。さらに日本人スタッフが、施術をするフィリピン人整体師をしっかり訓練し、サービスの質を維持してきたことも事業拡大に大きく貢献しています。

顧客層について

顧客層は12歳から60歳以上まで様々な世代に広がっていますが、主要なお客様は働き盛りの30代です。開店当初は男性のお客様が多かったですが、美容意識、健康意識の高まりに伴い女性のお客様も増えて、現在は54%が女性です。お客様の利用時間も様々で、午前中の場合もあれば、昼食の休憩時間にお越しいただくこともあります。オイルを使わないので、施術後にシャワーを浴びる必要がないことも時間を気にせずお越しいただける理由です。店舗によって中国人や日本人、フィリピン人など色々な国籍のお客様にお越しいただいています。

サービスについて

フィリピンのマッサージ店で一般的に使われるオイルを使用せず、ドライマッ

サーズに集中したことで他社と差別化を図り、整体・骨盤調整という独自のサービスで体の状態の回復、改善を強調しブランドを強化してきました。施術の際は着替えも提供し、店舗内の照明を明るくして、外からも店舗の施術の様子が見えるよう開かれた空間を提供するように工夫しています。施術の前後で体の調子の違いを実感できるので、そのサービスに納得いただいたお客様はリピーターとなってくださり、中には毎週お越しいただくお客様もいらっしゃいます。こうした整体師の技術を維持できているのは、日本人スタッフがトレーニングに加えて店舗に出す前の最終試験まで行っているからです。

価格について

施術内容と時間によって複数の価格帯を設定しています。一般的なスパが提供するマッサージとは異なるサービスを提供していますが、似ているサービスをあげるならばカイロプラクティックです。カイロプラクティックは一般的に時間当たり4,000ペソですが、当社は一時間1,695ペソで整体・骨盤調整を提供しています。一般的なマッサージと値段を比べると高く、カイロプラクティックよりお手頃な中間レンジに価格を設定しています。

ビジネスの成功要因について

良きビジネスパートナーを探すことが一番大切です。現在、フィリピンのマネジメントはパートナーのジェネラルマネージャーに任せ、現地に駐在している日本人は、新店舗出店の場所や人員配置についての意思決定、整体師の教育に注力し、役割分担を図っています。フランチャイズ契約と言うと、ブランドを提供して契約に基づいてフィーをいただくのが一般的かもしれませんが、当社は現地に日本人を派遣して、サービスの肝となる施術の質まで担保し、パートナーと一緒にフィリピンのビジネスを作り上げています。



整体師を養成するための研修所の風景

健康食品・サプリメント

国民の健康意識向上で市場拡大

【予防・健康管理関連の消費市場】

サプリメント市場の動向

経済成長に伴いフィリピンの国民の購買力が上昇している中、サプリメントの消費も旺盛だ。ドラッグストア等の店頭販売に加え、オンライン販売も増えているが、特にネットワーク販売が市場の成長を牽引している。ユーロモニターの調べでは、フィリピンのサプリメント市場において2017年にUSANAが32.8%のシェアを占めており、2位にはドラッグストア等のリテール販売を

中心とするMX3が8.0%の市場シェアを獲得。3位のアムウェイと4位のニュースキンは、それぞれ6.3%と4.5%のシェアを確保した。サプリメント市場規模は、2017年時点で92億ペソであり、2022年までに117億ペソまで拡大すると予想されている。

ドラッグストア

ドラッグストア名	特徴	価格
Watsons Philippines	2002年ショッピングモール最大手のSMグループと提携し、香港からフィリピンに進出して以降、美容、化粧品、香水等のヘルスケア商品を中心に成長している。2017年12月時点で、634店舗を運営。	オメガ3：Cardiclear (8.00ペソ/錠) マルチビタミン：Centrum (11.00ペソ/錠) ビタミンC：Fern C (7.25ペソ/錠)
Mercury Drug	1945年創設で、第二次世界大戦直後から続くドラッグストア。薬の他にも日用品等を扱い、2017年9月に1,100店舗到達。フィリピン全土に店舗を構え、従業員も14,000人を超える。	オメガ3：Cardiclear (8.00ペソ/錠) マルチビタミン：Centrum (10.50ペソ/錠) ビタミンC：Gen Care (5.25ペソ/錠)
The Generics Pharmacy	1949年より事業を営むドラッグストアの老舗。ジェネリック医薬品の販売に特化し、平均店員2人の小型店舗を運営。2018年9月時点で、2,016店舗を展開。2016年に小売大手のロビンソンズグループの傘下となり、今後更なる発展が期待される。	オメガ3：Cardiclear (8.00ペソ/錠) マルチビタミン：Centrum (10.50ペソ/錠) ビタミンC：Gen Care (5.75ペソ/錠)

サプリメント専門店

サプリメント専門店名	特徴	サービス料金
GNC	米国発祥ブランドでビタミン、ミネラル等のサプリメント、プロテインなども扱う。主にショッピングモール内に店舗を構え、全国に30店舗以上運営。	オメガ3：2,249ペソ/60錠 マルチビタミン：2,099ペソ/100錠 ビタミンC：2,459ペソ/1,000mg配合/90錠
Healthy Options	オーガニック食材やサプリメントなど健康関連の自社ブランド製品を扱う小売店。1996年設立の地場企業で、2018年9月現在、27店舗を展開。	オメガ3：925ペソ/60錠 マルチビタミン：2,395ペソ/100錠 ビタミンC：2,459ペソ/500mg配合/90錠

INTERVIEW



会社のロゴと共にジェイ副社長

Generika

健康維持・病気予防市場開拓に挑戦するドラッグストア

創業から今に至るまで

30年以上働いたアヤラコーポレーションを退職した創業者が、友人と地方でマイクロファイナンスの活動に精を出していました。その活動を通して、多くのフィリピン人が薬を買う余裕すらない状況を目の当たりにしたことがきっかけで、2003年にドラッグストアを立ち上げました。当時の理念は、所得によらず誰もが手の届く価格の薬を提供することでした。16の直営店を運営していた2008年、更なる事業拡大を目的にフランチャイズビジネスを開始しました。2011年、サプリメントメーカーが新市場を開拓する様子を見て、病気を防ぐための健康関連製品を販売するドラッグストアへと理念を変えることにしました。2014年にはジェネリック医薬品のActimedと、サプリメントや機能性食品のNutrawellの二種類の自社ブランドを市場に送り出しました。2015年にアヤラコーポレーションの傘下に入り、医薬品だけでなくヘルスケア関連のサービス全体を網羅するドラッグストアという理念を作り上げました。2017年からはバラングイを対象としたズンバのコンテストや健康関連の講演も実施し、健康増進活動を始めました。初年度は30件ほどでしたが、2018年は既に9月の時点で50件以上のイベントをフィリピン全土で開催し、参加者に健康的な生活を送るよう啓蒙活動を展開しています。

フィリピン人の健康意識の変化について

2011年に当社が健康関連商品を扱い始めてから現在までの7年間でフィリピン

人の健康意識もかなり変化してきました。特に、2014年～2015年はランニング大会、トライアスロン、サイクリングのイベントなど各種スポーツイベントを様々な団体が開催し始め、その傾向は現在も続いています。また24時間365日利用できるAnytime Fitnessに代表するフィットネスジムの店舗もここ数年で飛躍的に増えています。GDPを上回るペースで成長している医薬品市場に対し、健康関連分野の市場はまだ若く規模も小さく、成長率についてもGDPを僅かに下回る程度だと思っています。しかし健康関連分野の代表例のサプリメント市場は継続的に伸びており、MX3など急速に普及し人気を集めている製品も登場しているので、その市場の拡大に期待しています。

ターゲット顧客について

最近では男性のお客も増えて45%が男性、55%が女性です。年齢層は25歳～35歳の利用が多いですが、主要ターゲットは母親に据えています。一般的なフィリピン人の女性は、家計管理に加え、購買の意思決定の役割も担います。妻が夫を導いて物事を進める場面も多いので、家族全体を顧客に取り入れるために、妻を主要ターゲットとしています。2017年に当社が行ったジェネリック医薬品の使用を促すイベントでは、ジェネリック医薬品の効果や節約できる金額を妻に説明しつつ、夫にも情報が入るよう工夫し、家族全体の需要を取り込めるよう努めました。

日本企業へのアドバイスについて

フィリピン人にとって馴染みのある製品を提供することが必要です。例えばサプリ

メントとして人気を博しているMX3は、東南アジアの有名なフルーツ、マンゴスチンを原料にしておりフィリピン人に親しまれています。よく知られている原材料が使われていれば、消費者も受け入れやすく、実際に試すところまで繋がるかもしれません。当社も乳酸菌のサプリメントを2016年に発売開始しましたが、最初は宣伝するのにも販売するのも大変苦労しました。少しずつ乳酸菌の認知度も上がり、2018年には前年比で150%以上の売上を記録しています。対象とする所得層の選定も大切です。低所得層は基本的な食べ物を買う余裕が少なく、健康関連の製品を買う人は多くありません。可処分所得が増える中で、健康に気を遣うことの大切さを人々に教え込み、フィリピン人の健康に対する考え方を変えていく必要があります。

政府の政策について

現在の政府の政策は、プライマリーケアがほとんどで、病気予防としては加糖飲料税や学校のカフェテリアにおける健康的な飲食物の促進を除いてはありません。2014年～2015年に、健康促進、病気予防について政府と民間企業の対話の場が設けられましたが、政策には結びついていません。健康意識を高めるために、政府の協力は不可欠です。2003年に政府がジェネリック医薬品の法律を導入した当初は、ジェネリック医薬品のイメージはとても悪く、大半がインドから入ってくる質の悪い薬というイメージでした。そのため政府がジェネリック医薬品の効果や手ごろな値段で利用できることを広報して、数年間かけてイメージを向上させた結果、現在のジェネリック医薬品市場が築かれました。このように、国全体の健康意識を改善できるかどうかは、フィリピン人が健康に配慮した生活を送るよう促す政府の啓蒙活動にかかっています。

ターゲット顧客について

人々を啓蒙して健康的な生活を送るよう生活習慣を変える必要があります。フィリピン人は食べることが大好きです。友人の家に遊びに行けば、いつも食べ物でもてなします。つい食べ過ぎてしまうことも多く、コレステロール値の高い人や糖尿病の人の中には、本来は食事制限をしなければならないに関わらず、薬があるから食べすぎても問題ないと思う人も多いです。こうした意識を変える必要があります。



インタビューに応じるジェイ副社長

スポーツ・レクリエーション

【スポーツに関する政策】

フィリピンスポーツ委員会

フィリピンスポーツ委員会は、1990年制定のThe Philippine Sports Commission Actに基づき設立された大統領府直轄の政府機関である。主な役割は、フィリピンのアスリートの育成やフィリピンオリンピック委員会と協力した国際大会へのアスリート派遣である。一般大衆向けには、「Laro't saya sa parke」(タガログ語で「公園で家族と楽しめるスポーツ」)を合言葉に、スポーツ推進活動を行っている。具体的には、毎週土曜日の午前5時半～8時までケソンメモリアルパークでエアロビクスやズンバ等ダンスクラスを開催し、スポーツを学べる機会を無料で提供している。子どもから高齢者まであらゆる世代が朝早くから汗を流しており、ケソン市に留まらずダバオ市など全土に普及している。フィリピンスポーツ委員会の予算は少ないが、少しずつ活動の幅を広げている。

海外ブランドの進出や、フィリピンの地場企業が営むスポーツ用品販売店の発達により拡大している。健康意識の高まりを背景に、フィットネス産業の発展、トライアスロンやハイキングの人気も相まって、今後もさらに市場拡大が予想される。ナイキ、アディダスなどの海外ブランドは、ブランドショップを構えて自社製品を販売することに加え、複数ブランドを取り扱うスポーツ用品販売店にも製品を流通させることで市場の成長を牽引している。ユーロモニターによると、2016年のスポーツ用品の市場規模は235億ペソだったが、2018年には263億ペソ、2021年には311億ペソまで伸びると予想されている。複数のブランドを扱うToby's Sports、Planet Sports、Chris Sportsなどフィリピンの地場企業のスポーツ用品店は、店舗販売だけでなく、オンラインショップを立ち上げスポーツ用品の販売ルートが多角化している。オンライン販売が与える今後の市場動向への影響は気になるところだ。

いる。その中でもバスケットボールは多くのフィリピン人を魅了し、フィリピンバスケットボールリーグのプロバスケットボール選手への憧れに加え、狭いスペースでもゴールとボールがあれば楽しめる利便性の高さが人気を生み出している。その他にも、ボクシング、ボーリング、ビリヤードも人気が高く、ボクサーのマニー・パッキャオ、プロボウラーのパエン・ネポムセオ、プロのビリヤード選手のエフレン・レイズは国民の英雄である。スポーツリーグは、大学の学生リーグとプロフェッショナルリーグの両方が人気だ。大学の学生リーグは、2018年9月時点で10大学が加盟するフィリピン大学体育協会によって、様々なスポーツリーグが運営されている。プロフェッショナルリーグは、男性に人気のあるフィリピンバスケットボールリーグや、女性に人気のあるプレミアバレーボールリーグなどがある。企業のスポンサー活動も活発で、レストランチェーンのシェイクイズがバレーボールリーグのスポンサーに、またエナジードリンクのコブラがアイアンマン70.3フィリピン大会というトライアスロン大会のスポンサーになった事例がある。その他、最近のレクリエーション活動として人気の高いズンバは、2018年7月に13,350人のダンサーが参加したクラスが歴代最高のズンバクラス規模を誇るとしてギネス記録に認定された。

【スポーツ用品市場】

スポーツ用品市場の動向

フィリピンのスポーツ用品の市場は、

【レクリエーション】

米スポーツの影響大

20世紀初めから現在に至るまで様々なスポーツがフィリピンに導入されたが、特に米国のスポーツの影響を強く受けて

高齢者向けスポーツ活動 ズンバ教室

毎週木曜日夕方17時～18時半の1時間半、マカティスポーツクラブで開催されるズンバ教室。ベルエア バランガイの高齢者女性を対象として始まった活動はもう2年以上続いている。料金は一クラスあたりインストラクターに支払われる1,500ペソで、費用は各クラスに参加した人が均等に負担する。施設利用料はバランガイから支給されており、ズンバ教室のインストラクター曰く運動を通して体を鍛えるだけでなく、人との交流を目的として毎週参加する人も多いとのことだ。



ある一日のズンバ教室参加者



レッスン後の憩い

参加者の声

エベリンさん	毎週体を動かしに来ますが、心の健康のためでもあります。ズンバはインストラクターの動きに合わせて踊ることで、心も生き生きとしてくるからです。また、友人関係を維持する目的もあり通っています。
ベスさん	私は大会にも参加する本格的なテニスプレーヤーですが、ズンバは体全体を使ってテニスでは鍛えられない体の部分を鍛えます。健康面に加えて、人との交友関係を維持することはとても大事と考え、クラスに通っています。
マリッサさん	運動と楽しみのためにズンバクラスに参加しています。ズンバのインストラクターに従いながら、みんなと笑顔でいられることがとても楽しいです。

初心者から上級者まで集う マカティランナーズクラブ

毎週木曜日と土曜日の早朝にマカティ市のアヤラトライアングルで開催されているランニングクラブで、2018年9月末で活動開始から4年となる。体重を減らしたいという目的で参加する人から、大会に参加するためのトレーニングとして参加する人まで様々な人を受け入れている。マカティランナーズクラブのMeetupのグループ登録人数は1,000人を超えている。土曜日の活動では5キロ走った後に近くのマーケットまで参加者と朝食を食べに行くことが恒例だ。運動だけでなく人と人の交流の場にもなっている。



ある日の活動風景



ランニング前にストレッチをするメンバー

クラブ参加者の声

<p>マーゴさん (クラブ共同創設者)</p>	<p>定期的に運動する習慣を持ちたかったので、友人とクラブを立ち上げました。参加者と共に健康的な生活を送りたいという気持ちと、人と交流する楽しみのためにこれまで活動を続けてきました。定期的なランニングイベントに加えて、マラソン大会に参加したり、山道を走るトレイルランイベントに参加したりするなど活動の幅が拡大しています。</p>
<p>ジェニファーさん (クラブ共同創設者)</p>	<p>以前米国に住んでいた際にランニングの文化に出会いました。フィリピン帰国後、この文化をフィリピンでも広めたいと考え、マーゴさんと一緒にクラブを立ち上げました。同じ趣味を持つ人と交流することは楽しいですし、いろんな人と出会えることは貴重な経験になります。</p>
<p>シレネさん</p>	<p>以前は体重が100kgを超えており、全く走れませんでした。体重を落として健康になろうと思ってこのグループに継続的に参加しているうちに、走ることが好きになりました。質の良いランニングシューズを買ったり、心拍数まで図れる腕時計を買ったりと走ることにのめり込み、今では大会に参加するようになりました。</p>
<p>メライさん</p>	<p>もともと走る習慣はありましたが、継続的に一緒に走れる仲間が欲しかったのでこのクラブに参加しました。人との出会いと交流、そして走ることを通して健康を維持できるのがこのクラブに参加する醍醐味です。</p>



フィットネス

【フィットネス市場】

欧米系中心に拡大

フィリピンのフィットネス市場は、有名ブランドのフィットネスチェーンと小さなフィットネスジムが共存している。大手チェーンでは、欧米のフィットネス会社が市場を席巻しており、Anytime Fitness、Slimmers World、Gold's Gym、Fitness First が有名である。中でも米国発の Anytime Fitness は 2014 年にフィリピン市場に参入したばかりだが、2018 年 9 月現在で既に 70 店舗を展開する最大手であり、フランチャイズビジネスで急速に店舗を拡大している。また、その他の各社も続々と店舗数を拡大していることから、フィットネス市場の見通しは今後も明るい。背景には、所得の向上に伴い健康関

フィットネスサービス提供者と利用料金

施設名	特徴	サービス料金
Gold's Gym	米国の大手フィットネスチェーン。個人向けの有酸素運動、体力強化トレーニングに加え、ストリートダンス、ズンバなど集団で行うクラスも提供している。営業時間は店舗によって異なるが、多くの店舗は平日6時～24時、休日6時～21時の運営。2018年9月時点で27店舗展開。	月額：3,800ペソ 3カ月：10,800ペソ 6カ月：18,000ペソ
Anytime Fitness	米国の大手フィットネスチェーン。24時間365日アクセスできるジムの売りにヨガ、ズンバなど様々な集団クラスに加え、入会1カ月後に世界中の全店舗を利用できる特典付き。2018年9月時点で70店舗展開。	入館キー代：2,500ペソ（入会時のみ） 入会登録料：1,000ペソ（入会時のみ） 月額：12カ月2,500ペソ

連にお金を回す余裕が生まれ、健康志向が高まっていることが挙げられる。フィットネスジムの形態も多様化しており、従来型のフィットネスマシーンを提供するジムに

加え、サイクリングジム、ヨガ、クロスフィットジム、ボクシングジムなども活発になっている。







健康や老後に対する 意識・活動調査

- ・健康管理・増進の意識調査
- ・退職後に対する意識調査
- ・世代別座談会



健康に対する意識・活動調査

健康管理・増進の意識調査

JETRO は 2018 年 9 月、フィリピン人の健康増進および退職後の生活等に関する意識調査を実施した。フィリピン人の健康意識は総じて高く、年齢が上がるにつれて健康への支出も増えている。退職後の生活については、世代間によらず総じて楽観的な人が多かった。

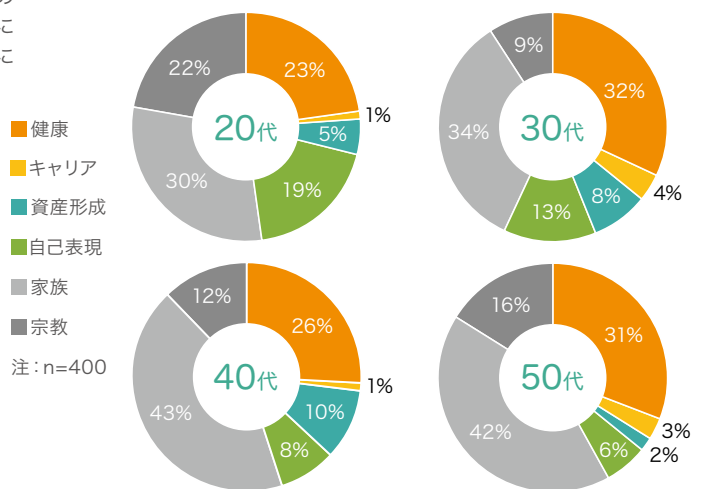
「フィリピン人の健康長寿意識」調査

アンケート調査は、男女各 200 名（合計 400 名）を対象とし、2018年9月に PwC Philippines 社が実施。20代、30代、40代、50代の各年齢層からそれぞれ 100名（男女各50名）が回答。

① 生活の中で重要度の高い健康、家族、宗教

生活における「健康」の重要度は、どの世代にとっても高いが、世代間で意識の差は比較的大きくない。また、カトリック教徒が多く家族の繋がりの強い土地柄ゆえ、「家族」の重要度が高いことも、どの世代にも通じる。年齢が上がるにつれて、「家族」の重要性は高まる傾向にあり、20代と40代では、13ポイントの差がある。

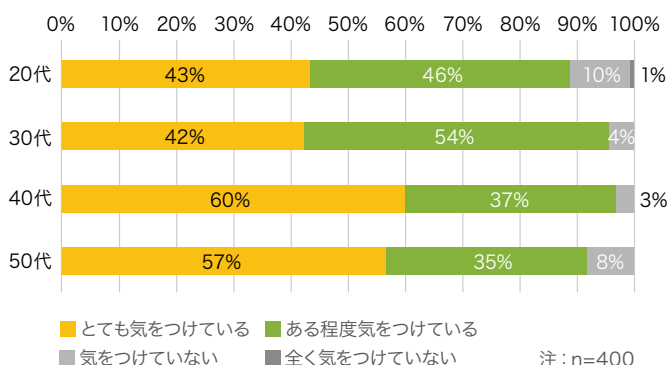
- 生活における最重要要素 -



② 健康に対する意識の高い40代、50代

年代を問わず、「とても気をつけている」と「ある程度気をつけている」が合わせて約 90%以上であることから、健康に対する意識は高い。「とても気をつけている」人は、20代、30代に比べて、40代、50代の方が 14 ポイント以上高く、40代を機に健康に対する意識はより高まっている。

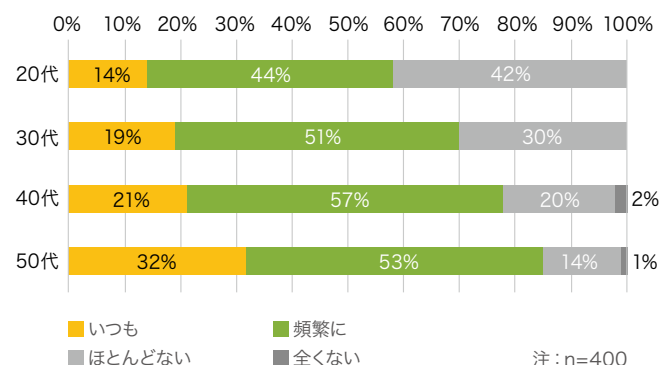
- 健康に対する意識の割合 -



③ 年齢が上がるにつれて健康づくりに邁進

健康増進活動をしている人の割合は、年齢が上がるにつれて増加傾向にある。「ほとんどない」人が42%も占める20代に比べ、50代は「ほとんどない」および「全くない」人が合わせて15%であり、年齢が上がるにつれて健康増進活動に取り組む頻度も高くなることが分かる。

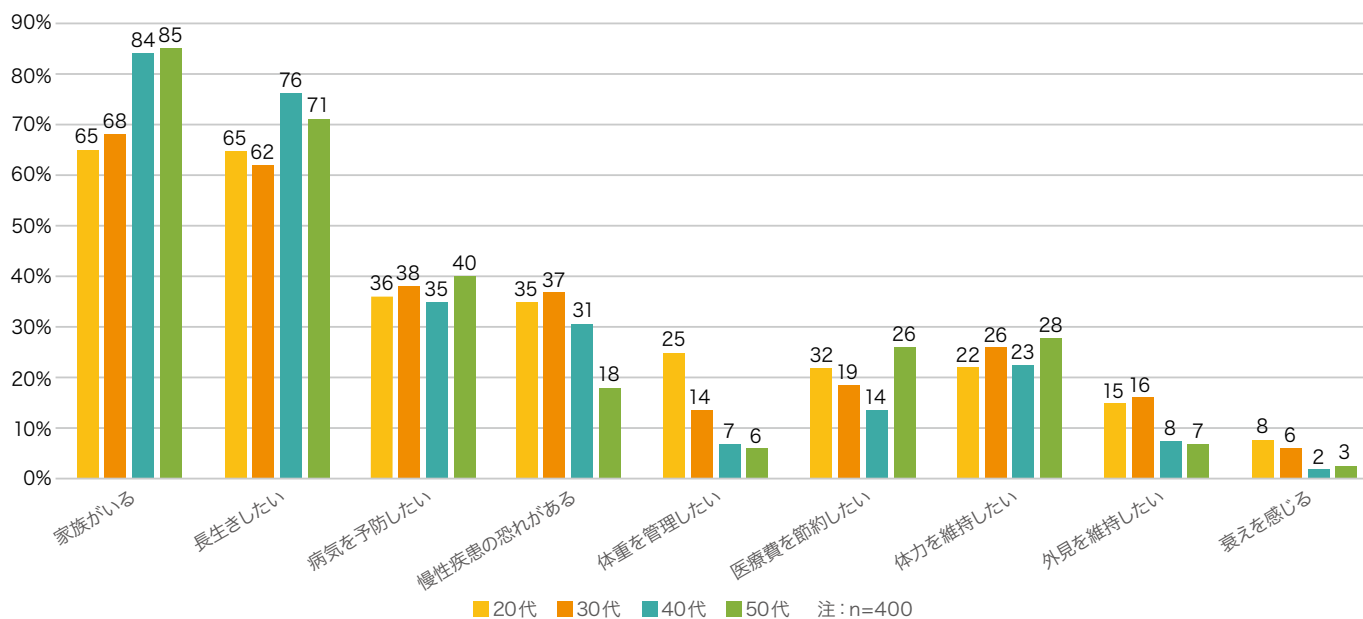
- 健康に取り組む頻度 -



4 健康を意識する理由

すべての年代が、健康を意識する最大の理由として「家族がいること」を挙げており、年齢が上がるごとにその傾向が強くなっている。また、長生きしたいという人間の根本的な欲求も総じて高い。一方で、慢性疾患の恐れがあることを理由に健康を意識する人は、50代だと少ないが、40代以下の年代は30%以上を占める。また20代は体重への関心も高い。

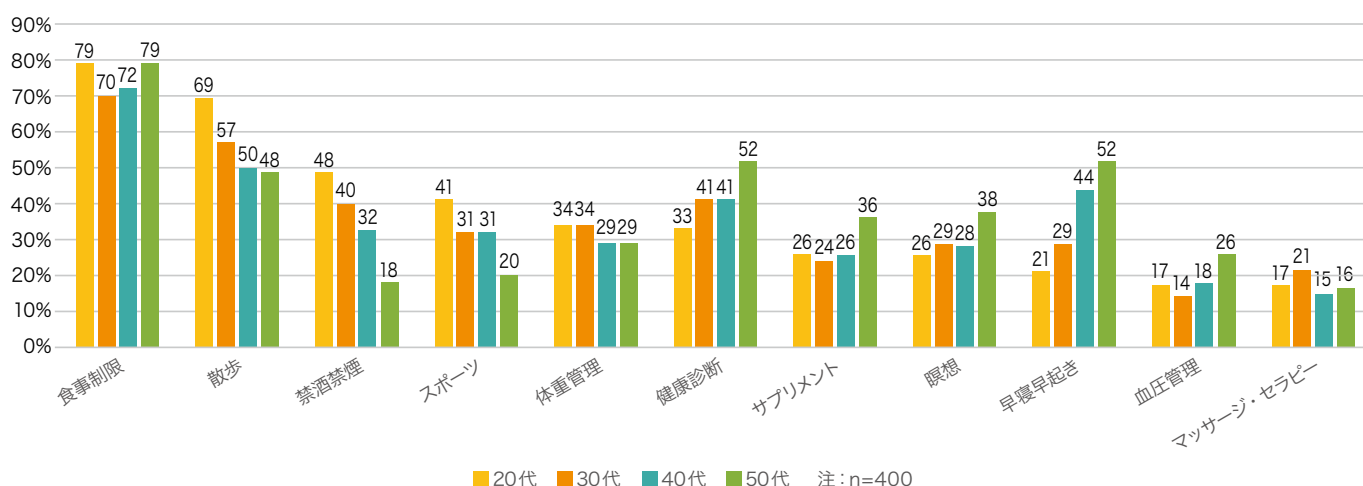
- 健康を意識する理由 -



5 健康のためには食事制限

年代を問わず、健康のために「食事制限」に取り組む人が多い。年齢が上がるにつれて、「健康診断」、「瞑想」、「早寝早起き」など、日常生活に組み込める健康増進活動を選択する割合が上昇している。

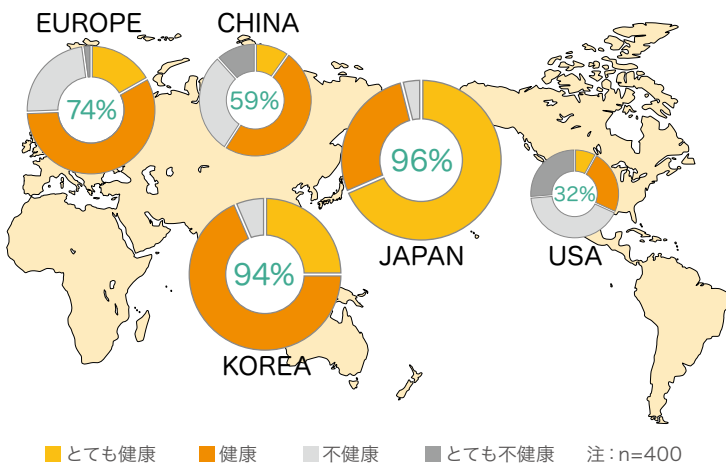
- 健康増進のために取り組んでいること -



6 韓国の健康的なイメージ拡大 日本は「とても健康」で圧倒

日本を「とても健康」とイメージする人の割合は69%で圧倒的なトップだ。一方で「とても健康」と「健康」を合わせた場合、韓国は2ポイント差で日本に次ぐ。近年、フィリピンのドラッグストア等小売店において韓国製のスキンケア商品が出回っており、健康的なイメージが普及していると考えられる。

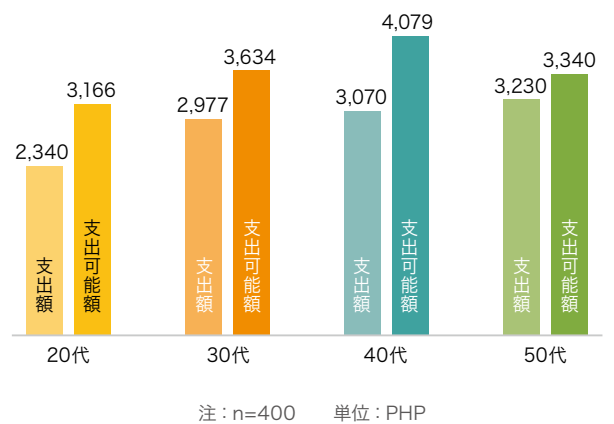
- 健康イメージの国別比較 -



7 健康のために、 3,000ペソ以上支出可能

年代によらず、健康のために3,000ペソ以上は支出可能と回答している。実際に健康のために支出している金額は年齢が高くなるにつれて増加しており、20代と50代では890ペソの差が生じている。

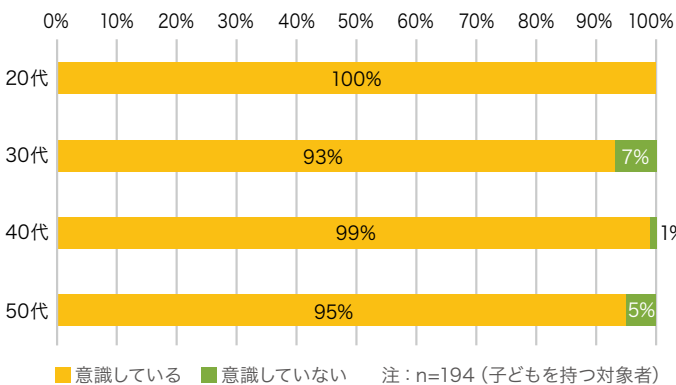
- 健康増進に対する支出額と支出可能額 (月額平均) -



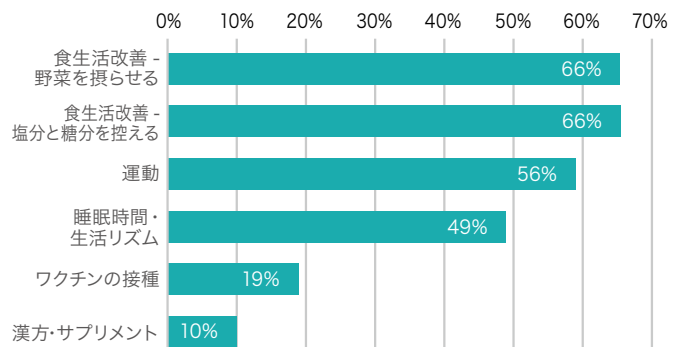
8 子どもの健康を重要視

子どもの健康に対する意識は、世代によらず総じて高い。子どもに野菜の摂取を促すことや、塩分・糖分を控えることで食生活の改善が行われている。

- 子どもの健康を強く意識 -



- 子どもの健康増進のためにやっていること -

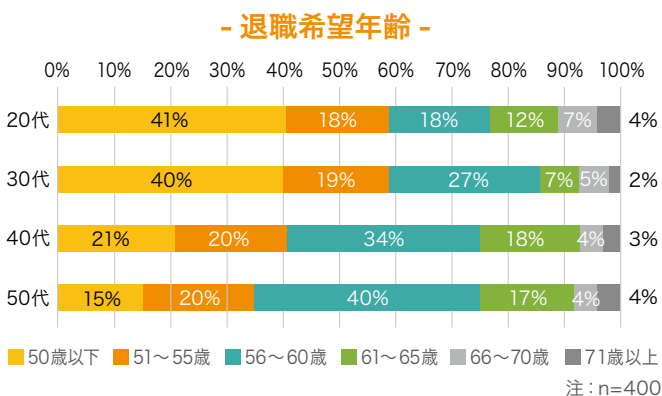


老後 に対する 意識・活動実態

退職後 に対する 意識 調査

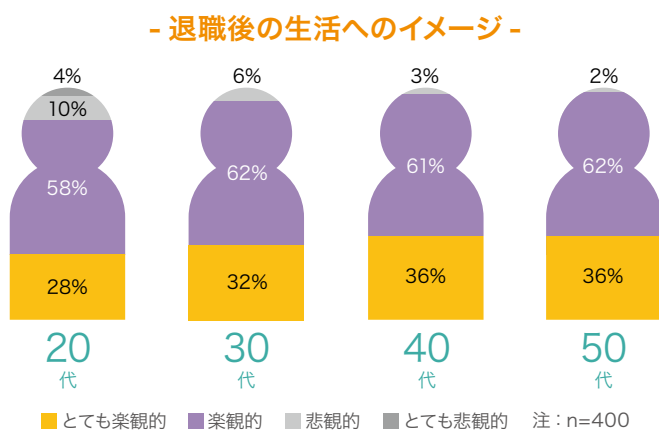
① 世代間で異なる退職希望年齢

20代と30代の約40%の人が50歳以下までに退職したいと考えているのに対し、40代と50代においては、56～60歳での退職を希望している割合がそれぞれ34%、40%と、世代間で退職希望年齢に大きな差がある。若い世代はできるだけ早く退職したいと考えるが、年代が上がると経済的な観点などを考慮すると推測される。



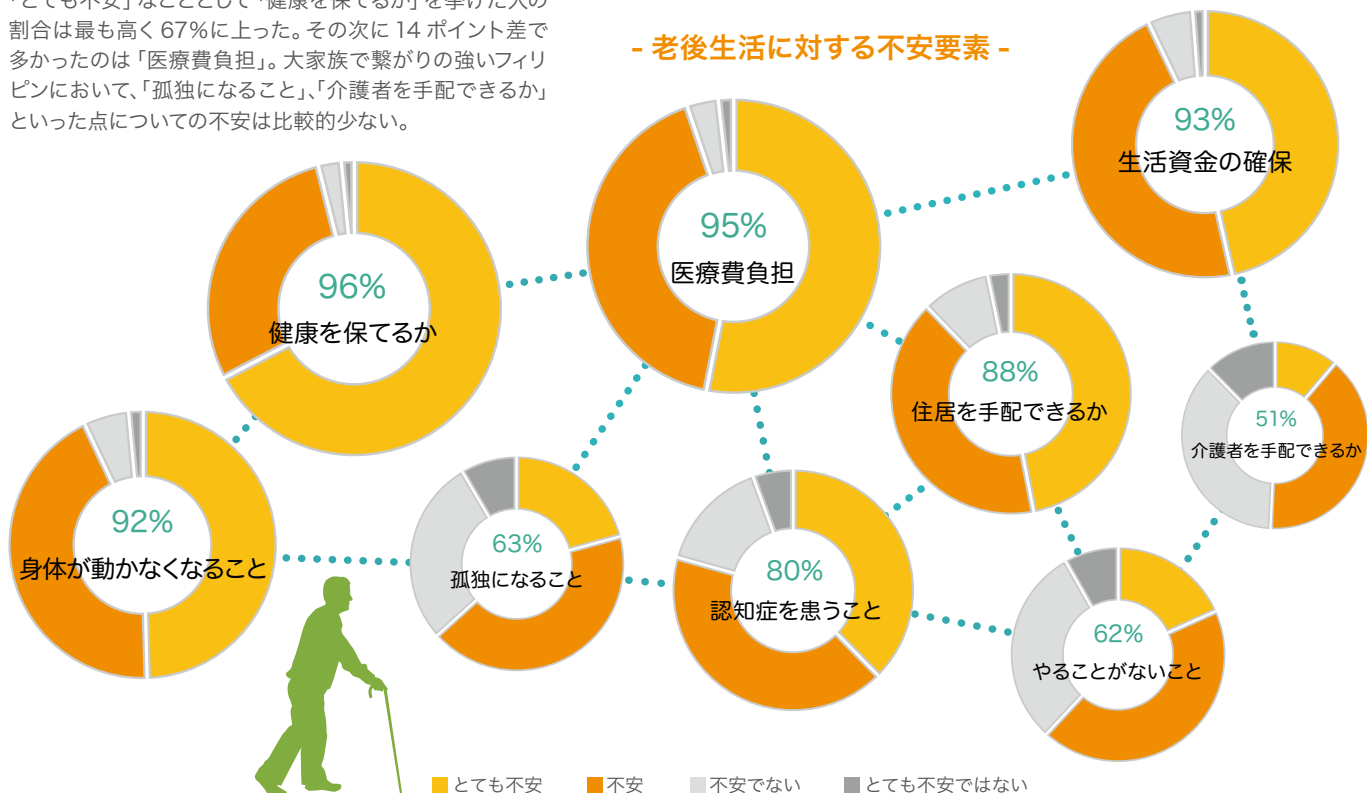
② 退職後の生活は総じて楽観的

退職後の生活については、世代を問わず楽観的な人が極めて多く、86%の20代を除いて、30代～50代は90%を超える人が「とても楽観的」または「楽観的」と回答している。



③ 健康を保てるかを最も懸念 (数字は「とても不安」「不安」と回答した割合)

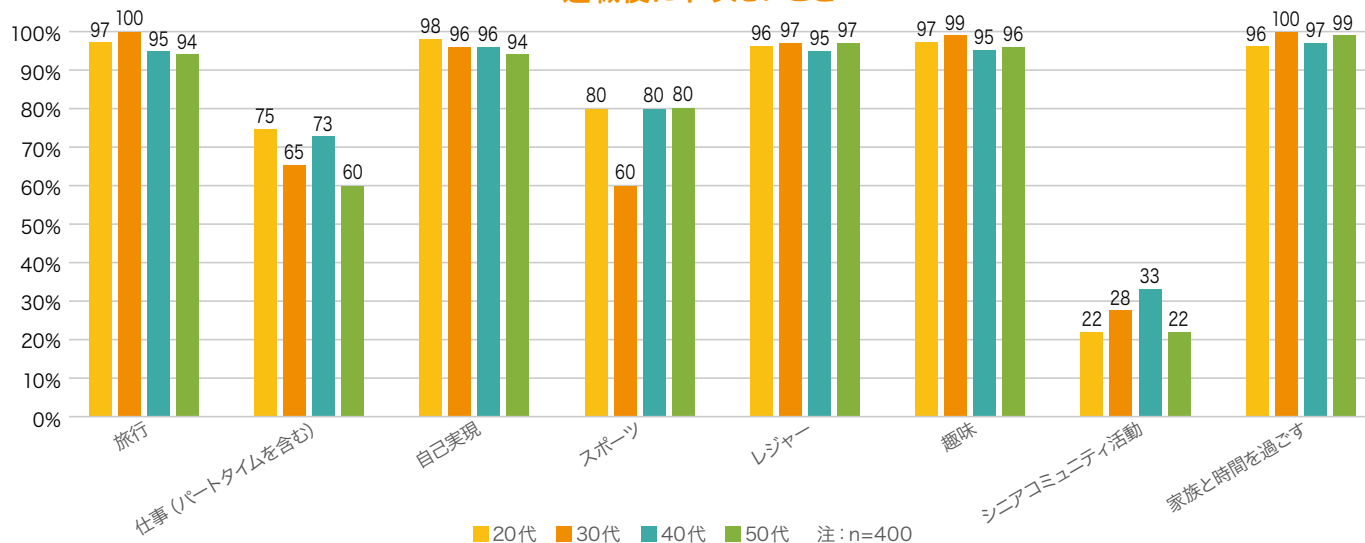
「とても不安」なこととして「健康を保てるか」を挙げた人の割合は最も高く67%に上った。その次に14ポイント差が多かったのは「医療費負担」。大家族で繋がりの強いフィリピンにおいて、「孤独になること」、「介護者を手配できるか」といった点についての不安は比較的小さい。



4 退職後には趣味と家族の時間を 楽しみたい

年代を問わず、「旅行」、「自己実現」、「レジャー」、「趣味」、「家族と時間を過ごす」が90%以上を超えており、積極的に退職後の生活を送ろうという姿勢が垣間見える。一方で、シニアコミュニティの活動は、すべての世代で相対的にかなり低い。

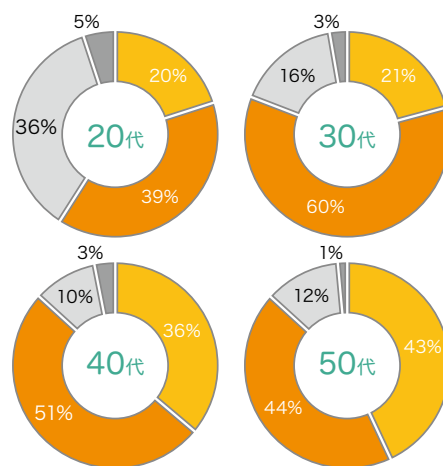
- 退職後にやりたいこと -



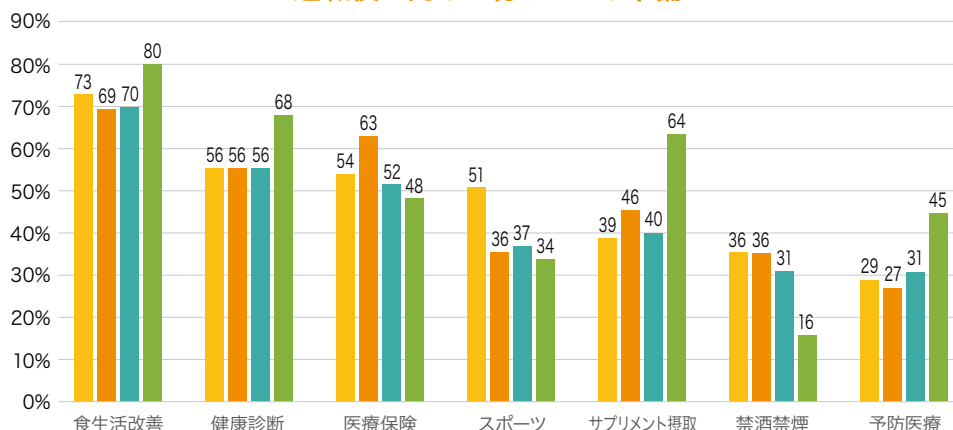
5 30代以上の8割は 老後に備えて準備

「かなり準備をしている」または「それなりに準備をしている」を選んだ人は、20代では59%だが、30代以降は80%を超え、40代と50代は87%に至る。具体的な準備内容は、食生活改善が各年代の中で最も高く、50代に至っては80%が取り組んでいる。50代において、食生活改善に次いで実施されている取組は、健康診断(68%)、サプリメント摂取(64%)である。

- 退職後の生活への準備状況 -



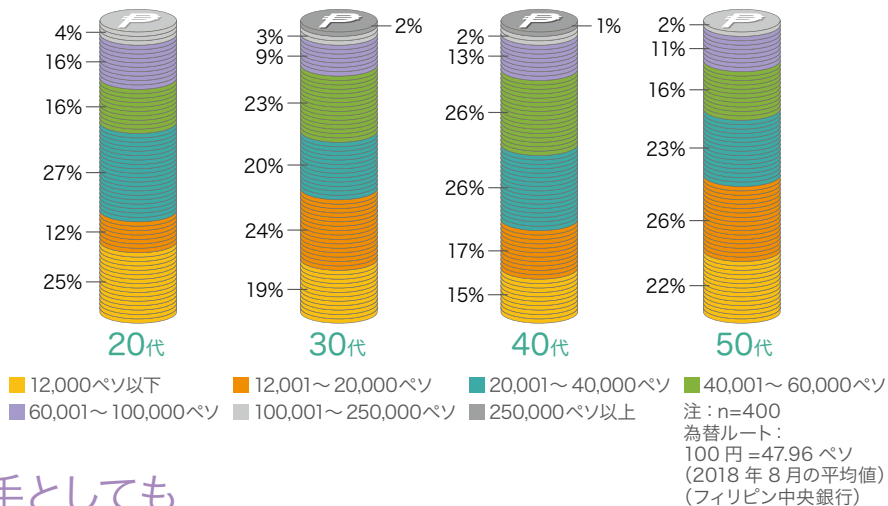
- 退職後に向けて行っている準備 -



6 各年代の約6割は必要生活費40,000ペソ以下

年代によって退職後に必要な生活費は異なるが、どの世代においても約60%は月額40,000ペソ以下と回答した。特に50代は71%が月額40,000ペソ以下と回答した。

- 退職後に必要な生活費(月額) -

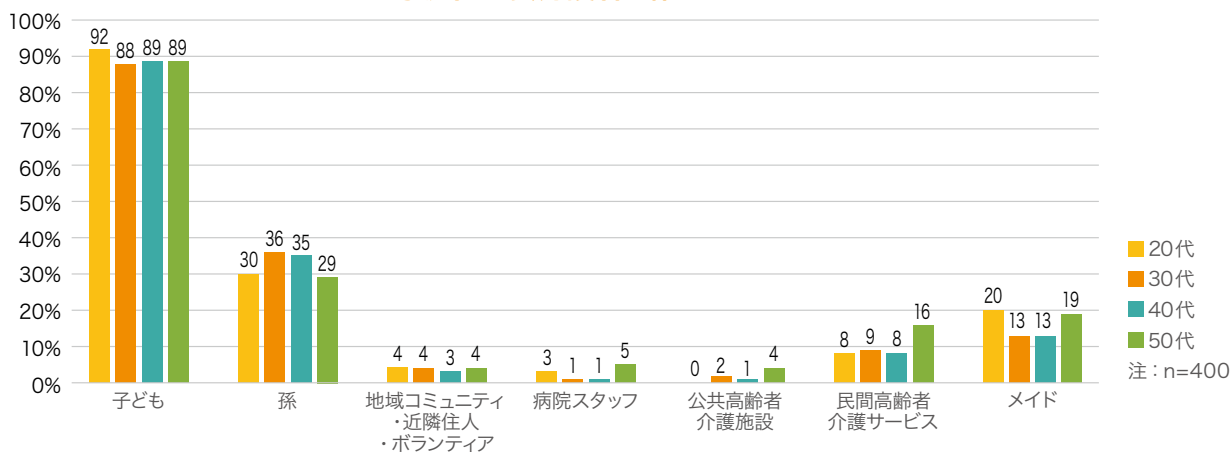


7 子どもは介護の担い手としても最も期待される存在

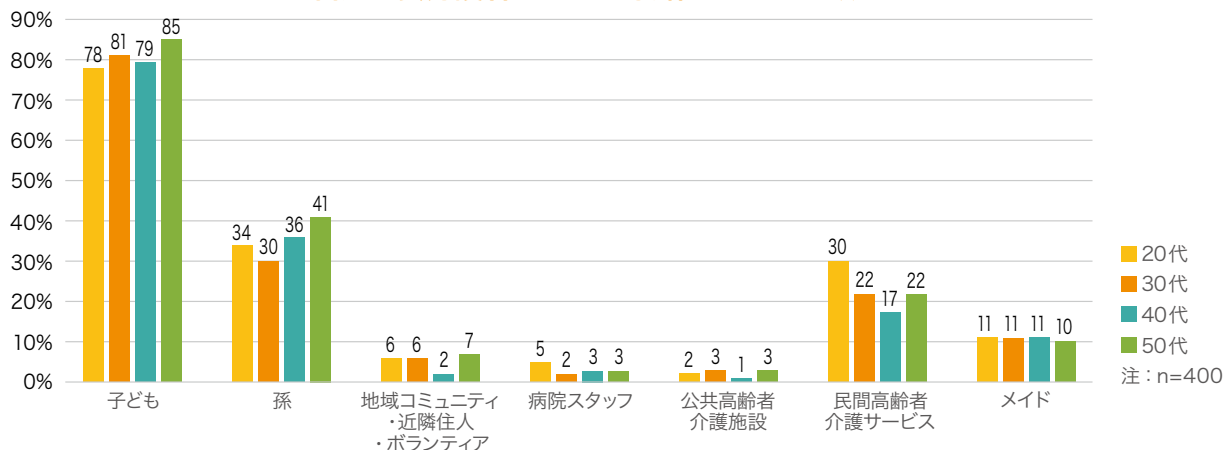
年代によらず、家族内の要介護者をケアするのは「子ども」という回答がおおよそ90%を占めている。次いで、「孫」、「メイド」、「民間高齢者介護サービス」と続く。50代では民間高齢者介護サービスを選択する割合が上昇する。

「自分自身は誰に介護をしてもらいたいか」という質問については、子どもが一番であるのは同様である。年代が上がるにつれて、孫への期待が高くなる傾向がある一方、民間高齢者介護サービスを選ぶのは20代で30%と、他の年代よりも高くなっている。

- 家庭内の要介護者を誰がケアすべきか -



- 自身が要介護者になった時、誰にケアして欲しいか -





20 30 代 座談会

＼質問①／ 健康維持のために取り組んでいる 活動はありますか？

【トネッテ】：Fern C というビタミンC サプリメントを摂取しています。日本のサプリメントを使用したことはまだありません。ジムに行くのは飽きてしまったので、最近はポールダンスをしています。1回 500 ペソで教室に参加できます。日本の健康関連製品では、ロート社の目薬を使用しています。

【ジョリー】：私は警備員という職業柄、週一度ジョギングをすることが必須です。時間があれば、週に二度ジムに行きます。サプリメントは取りませんが、マルンガイとショウガを混ぜたハーブ茶を摂取します。抗酸化作用があって体に良いからです。こうした知識は Google や YouTube を使って学びました。日本の食品と言えば日清のカップヌードルが有名ですが、日本の健康関連の製品は市場で認知されていませんね。

【チャーム】：睡眠を促すので、ブランド名は忘れましたが米国産のビタミンE サプリメントを摂取しています。週に1、2回はジムで水泳をします。日本の健康関連製品は使用していません。

【バイ】：ビタミン剤は摂取していませんが、食べ物は偏りなく魚も大丈夫ですし、野菜も肉も好きです。運動は、ハイキング、水泳、マラソンが好きです。普段、家と会社の間約2キロを歩いて往復しているのと、時々プール付きのコンドミニアムに住む友人を訪れた際には、友人と水泳をすることが多いです。

＼質問②／ 健康維持のために興味のある 活動で、まだ取り組んだこと のないものはありますか？

【バイ】：肝臓を浄化する作用があると聞いたことがあるので、グルタチオン（アミノ酸の1種）を摂取してみたいです。しかし高額なので、まずは野菜を多く食べて肉を減らすような正しい食生活と運動に取り組みたいです。BPO ビジネスが盛んになり、夜勤と日勤を繰り返す体に負担のかかる生活はマニラの人々に悪影響です。私は10年間夜勤のある仕事についていますが、体力的にとっても大変です。仕事上、日中寝る生活に体を調整する必要がありますが、できれば昼間活動して夜寝るほうが体に良いと思うので、そうした規則正しい生活に憧れます。

【チャーム】：食事の量を増やしても体重が増えないので、体重を増やす効果のある Serious Mass のホエイプロテインに興味があります。また、友人がジムでのウエイトトレーニングを勧めるので、まだ取り組んだことはありませんが、試してみたいと考えています。

【ジョリー】：ラペリングや登山をやってみたいです。ビタミン剤はよく分かりませんが、体に良いあらゆる種類の成分をまとめて取れるビタミン剤があれば摂取したいです。自分で選ぶのは得意でないので、誰かがお薦めをしてくれるなら飲んでみたいと思います。基本的には、しっかり運動して食べることを心がけています。

【トネッテ】：短時間で言う運動に関心があるので、高強度インターバルトレーニングをやってみたいです。ヤクルトが好きですが、他の乳酸菌飲料にも興味があります。サプリメントであれば、肌の代謝がよくなるのでビタミンEを取ってみたいです。

＼質問③／ 老後の生活に向けて準備して いることはありますか？

【トネッテ】：老後に向けて準備していることとして、医療保険への加入があります。

その他、老後のためではありませんが、貯金はしています。理想の退職年齢は40歳ですが現実的には、45歳～50歳が妥当と思います。

【ジョリー】：年を取ったら働くことが難しくなるので、経済的に安定していなければなりません。会社のオーナーになれば不労所得で生きていけます。理想の退職年齢は45歳～50歳ですが、現職では60歳で定年です。歳を取ると病気がちになるので、できるだけ早く退職したいです。

【チャーム】：保険と投資の要素を兼ね備えた変動型ユニバーサル保険に加入しています。入院した際にも医療給付を受けられます。体のことを考え、現在の仕事は残業が多く睡眠時間を十分に取れないので、ワークライフバランスの取れた会社へ転職することを考えています。

【バイ】：マニラに単身で21歳の時に来た際、当時家賃が6,000ペソと安かったので家と土地を購入することにしました。家を購入すると土地を持てるので良い投資だと年上の兄が言っていたからです。私には6人の男兄弟がいて、唯一私だけが大学を卒業しマニラに住んでいます。大卒で他の兄弟よりも給与の高い職につけたので、兄弟の子どもを金銭的に援助もしました。長期投資の一環として、田舎でココナッツやゴムの木を育てています。健康保険も投資の一つですが、私はPhilam Lifeの保険に加入しています。40歳までにはオフィスで働くのを辞めて、自分の会社を持つことを計画しています。コーヒー販売のようなネットワークビジネスを学生時代に試したことがあります。現在のIT企業勤務のかたわら5つほど副業を経験したこともあります。

＼質問④／ 家族の中で既に退職した人はいますか？

【トネット】：56歳になる父は早期退職制度を利用して、母と共に生活をしています。介護が必要になっても介護施設には頼りません。父は昔軍隊に所属していましたが、今は農業に夢中で母と助け合いながら生活をしています。

【ジョリー】：58歳になる父がちょうど退職します。父の体の調子が良くないことが見て取れたので、私たち家族が説得して退職させました。現在は、母と兄弟が父の面倒を見ています。母も退職して父と暮らしています。介護士を雇うことは、家族で高齢者の面倒を見るフィリピンの文化には合わないと思います。

【チャーム】：58歳の父は私が生まれるときには軍隊から退役し、以来農業に従事しており退職の予定はありません。57歳の母が唯一会社勤めをしていますが、3年後に退職予定です。両親の介護が必要になった場合、私は6人兄弟のうち2人の妹が両親と暮らしていることもあり、家族が助けるとしています。現在は母も働きに出ているので、家にお手伝いさんと呼ぶことがあります。

【バイ】：私の両親は会社勤めの経験がないので、退職という概念は存在しません。父は農業従事者で73歳になりますが、まだ働いていますし、母も糖尿病のためインスリン注射を打ってはいますが、体を使うことも考えサリスストアを構えています。一度マニラに両親を連れてきましたが、都会の生活で体調を崩してしまい現在は田舎へ戻っています。両親はService Insurance System（以下、SSS）から年金をもらっており、また私は独身なので、両親を金銭的に援助しています。兄弟も結婚するまでは援助していました。家族で両親の世話をする文化があるので、介護士を雇うことはフィリピンの文化に合わないと思います。

＼質問⑤／ 政府の高齢者への政策についてどう思いますか？

【トネット】：政策について詳しくないのですが、知っていることは、高齢者のための年金保険制度SSSと、公務員が加入するGovernment Service Insurance System（以下、GSIS）が存在することくらいです。

【ジョリー】：私が知っているのは、退職したらSSSが公務員が加入するGSISから年金がもらえることです。高齢者が貰える額は最低限です。医療給付があれば助けにはなりますが、緊急事態のときでなければ病院に行くこともないです。一般的に公立病院は私立病院よりかなり安く医療サービスを提供しています。サービスの種類によっては無料で提供されている場合もありますが、公立病院はいつも混んでいて必要なサービスをすぐに受けられないことが多いです。

【チャーム】：SSSやGSIS以外の社会保障制度には、公的医療保険プログラムを運営するフィルヘルスと住宅ローンを提供するPagiBIGがあります。私の知る限りでは、勤続年数が5年以上の60歳～65歳は、雇用主から退職金を受け取る権利を有すると定めた法律があります。大企業ではきちんとした退職金制度がありますが、残念ながら政府の目が行き届いていないところもあり多くの中小企業では対応されていません。

【バイ】：市によっても異なります。地方に比べて都会は発展のスピードが速いので、マニラ首都圏は恵まれています。田舎にいる私の父は目の病気になった際、私のフィルヘルスの扶養範囲だったので医療給付を使いました。しかし、現在は高齢者全員が自動的にフィルヘルスの対象になりますが、マカティ市在住の高齢者であれば、サービス内容によっては医療を無料で受けられますが、別の市の人は受けられません。

座談会参加者



トネットさん

性別：女性
年齢：27歳
人種：マレー
宗教：カトリック
学歴：大学院卒
職業：金融
月収：4万ペソ以上～6万ペソ未満
既婚・未婚：未婚
家族人数：4人
同居人：単身



ジョリーさん

性別：男性
年齢：35歳
人種：マレー
宗教：カトリック
学歴：大学卒
職業：警備員
月収：1.2万ペソ以上～2万ペソ未満
既婚・未婚：既婚
家族人数：3人
同居人：妻、子ども



チャームさん

性別：女性
年齢：25歳
人種：マレー
宗教：カトリック
学歴：大学院卒
職業：監査法人勤務
月収：2万ペソ以上～4万ペソ未満
既婚・未婚：未婚
家族人数：6人以上
同居人：友人



バイさん

性別：男性
年齢：33歳
人種：マレー
宗教：カトリック
学歴：大学卒
職業：IT企業勤務
月収：4万ペソ以上～6万ペソ未満
既婚・未婚：未婚
家族人数：6人以上
同居人：単身



40 50 代 座談会

＼質問①／ 健康維持のために取り組んでいる 活動はありますか？

【トリシア】：現在定期的な運動をしていませんが、以前はヨガのクラスに通っていました。また、友人から勧められたUSANAのビタミン剤と抗酸化サプリメントを摂取しています。日本製のビタミン剤を試したことはまだありませんが、健康維持のためにサプリメント全般に興味があります。

【ビエン】：私は高血圧の治療をしており、改善するために仕事の後など時間が許す限りできるだけ散歩をするように心がけています。サプリメントは Fern-C のビタミン剤を摂取していますが、日本製のサプリメントは試したことがありません。お酒は付き合い程度に嗜みます。

【マリオ】：健康のことを考えてサプリメントを摂取したりすることはありませんが、友人と散歩はしています。健康のためにお金をかけることは特にしていないので、日本製のサプリメントも試したことがありません。

【ミア】：病気に罹りそうと感じた場合のみビタミン B か C のサプリメントを摂取することがありますが、普段はビタミン剤を飲みません。免疫力を高めるためにターメリック

のカプセルとレモン水を毎朝飲むようにしています。飲み方も決まりがあって、レモン水はそのまま放置しておくで酸化してしまうので、レモンを絞って5分以内に飲むようにしています。ビタミン剤は消化器官に影響するかもしれませんし、少し不安を抱えています。色々な物が溢れる中で、私の周りの多くの人は特に自然由来のものにこだわりを持っているので、私も実践しています。また週に1度はダンスクラスに参加し運動するようにしています。

＼質問②／ 健康維持のために興味のある 活動で、まだ取り組んだこと のないものはありますか？

【トリシア】：夜遅くまで仕事をしないといけなことがあるので現実的には難しいですが、ピラティスのクラスに参加するなど定期的な運動習慣を持ちたいです。サプリメントは、美容に効くビタミン剤を試してみたい気持ちがあります。

【ミア】：最近流行っているビタミン注射を受けてみたいのと、美しくなるために、美白と美肌効果のある美容関係の注射にも興味があります。一本注射するのに3,000ペソ～5,000ペソもかかるうえ、1時間半ほど

治療に要しますが、信頼できる医療サービスの提供者と知り合えたら試してみたいですね。

【ビエン】：教会での聖歌隊の活動などが忙しくて現実的ではありませんが、できることならジムに通いたいです。医者から薬を飲むほど深刻ではないと言われていますが、高血圧の改善のために運動するように指導されているからです。

【マリオ】：ビタミン注射に関してはインターネット上でも人気だと聞いたことがありますが、私は先ほど挙がっていたレモン水など自然由来のものを試してみたいです。

＼質問③／ 老後の生活に向けて準備して いることはありますか？

【トリシア】：理想の退職年齢は60歳～65歳ですが、現時点で老後に備えた準備は特にしていません。娘たちが大学を卒業したら退職しようとも考えますが、うち一人の娘が医学部に進学する可能性があり、その場合これから8年も先のことになります。彼女たちが自立してくれたら、私たち親は経済的に楽になるのですが、現時点では退職自体考えるのが難しいですね。

【ビエン】：一人暮らしで甥や姪の学費を

工面するなど他人の経済的な支援をしたことはありますが、自分の老後の準備は特にしていません。できることなら、自分の会社を立ち上げて老後は経済的に困らない状況を作れたらと思います。

【マリオ】：現在の仕事は63歳で定年退職となってしまうのですが、私も特に老後のための準備はしていません。

【ミア】：私は万が一病気になった場合に備えて医療保険に入っていますが、生命保険には加入していません。金融機関に勤めていた夫から、年老いれば病気になる可能性が高まるので医療保険には加入すべきだが、生命保険を購入するお金は別の投資に回した方が良くアドバイスを受けたからです。余裕資金があれば、不動産にお金を回したいですね。老後の生活に関しては、自分の会社を持っており、労働時間を自分で管理できるので、退職することはないと思います。

＼質問④／

家族の中で既に退職した人はいますか？

【トリシア】：最年長で55歳になる義理の兄がいますが、彼も含めて家族全員が働いており、介護が必要な扶養家族はいません。もし彼らが退職して介護が必要になった場合、家族が面倒を見ることになると思います。介護士は入浴の補助や薬の服用の介助をしてくれると聞いたことがあります。一般的なフィリピン人が子どもや孫を含めた大家族で生活しているように、私の家族も介護士は利用せずに家族の誰かが面倒を見るでしょう。

【ビエン】：既に両親は亡くなっており、1歳年上で54歳の姉は病気で休職中ですが、彼女の家族が面倒を見ています。その他、年下の弟や妹は働きに出ていて、介護が必要な人は家族にいません。もし誰かが退職して介護が必要になったとしても、家族が世話をするため介護士を利用することはないでしょう。フィリピンは家族の絆が強いため、介護事業はフィリピンの文化に合わないと思います。

【マリオ】：両親は既に他界し、妹は日本人と結婚して日本で暮らしているため、家族の中に退職者はいません。

【ミア】：私は6人兄弟の末っ子で、そのうち2人は既に退職していますが、家族が面倒を見ています。ちょうど今年退職する別の兄は、経済的に余裕があるうえ、子どもたちが20代ですから子どもたちが面倒を見ると思います。自分の会社を持っている別の兄は、生涯現役を貫くでしょう。5年後に定年を迎える兄も、家族が世話をするとします。

＼質問⑤／

政府の高齢者への政策についてどう思いますか？

【トリシア】：60歳以上になると公的医療保険や年金のSocial Security System (以下、SSS)の恩恵を受けられます。しかし前者の保障範囲と、後者の受給金額は不十分だと思います。

【マリオ】：政府の政策についてはよく分かりませんが、現行の政策で良いと思っています。

【ミア】：フィリピンでは、フィルヘルスなど国から提供されている社会保障について人々が知らされていないという問題があると思います。私の経験に基づくと、去年手術をした際には夫の扶養範囲として8割の費用を公的医療保険で賄え、息子が湿疹を発症した際も、公的医療保険で対応できると言われました。保障する制度はあるにもかかわらず、勤め先の会社の人事部が説明をしないと保障範囲を知ることもないか

もしれません。友達から経験談を聞くなど、自ら情報収集することが必要ですね。

【ビエン】：病院にいる患者でさえもフィルヘルスの存在を知らない人がいると聞いたことがあります。政府はフィルヘルスの存在を宣伝してはいますが、それをどう使うかまでは人々に伝わっていないようです。年金政策をとっても公務員が加入するGovernment Service Insurance System (以下、GSIS)とそれ以外の人加入するSSSがあるように、高齢者によって適用される政策が異なります。私は退職後GSISを受給しますが、金額は老後の生活には不十分だと思います。市レベルの地方政府によっても提供している医療保障が異なります。マカティ市は、他の地方の市と比べると医療給付が手厚いと思います。

座談会参加者



トリシアさん

性別：女性
年齢：49歳
人種：マレー
宗教：カトリック
学歴：短大卒業程度
職業：公務員
月収：4万ペソ以上～6万ペソ未満
既婚・未婚：既婚
家族人数：4人
同居人：両親、夫



ビエンさん

性別：男性
年齢：53歳
人種：マレー
宗教：カトリック
学歴：短大卒業程度
職業：公務員
月収：1.2万ペソ以上～2万ペソ未満
既婚・未婚：未婚
家族人数：6人以上
同居人：無し



マリオさん

性別：男性
年齢：49歳
人種：マレー
宗教：カトリック
学歴：大学卒
職業：公務員
月収：2万ペソ以上～4万ペソ未満
既婚・未婚：既婚
家族人数：6人以上
同居人：妻、子ども



ミアさん

性別：女性
年齢：51歳
人種：マレー
宗教：カトリック
学歴：大学卒
職業：起業家
月収：6万ペソ以上～10万ペソ未満
既婚・未婚：既婚
家族人数：4人
同居人：夫、子ども



60代以上 座談会

＼質問①／ 健康維持のために取り組んでいる活動はありますか？

【ビッキー】：私は腸内の健康を考えて、Healthy Option のマルチビタミンと善玉菌を摂取しています。運動は、ヨガで呼吸運動をしています。

【ベラ】：体を動かすことが好きで、家ではオンラインショップで買った運動機器を使っています。ズンバのクラスにも平日の夜に週3回～4回参加しています。サプリメント等は摂取しません。

【ラミア】：私は高血圧なので、薬を服用しています。月曜から土曜まで仕事があるので運動はできませんが、体のことを考え毎週日曜日にジョギングをしています。サプリメントは、マルチビタミンの Enervon を摂取しています。

【トニー】：私も高血圧なので、薬を服用しています。サプリメントは摂取していませんが、健康を考え毎朝、瞑想と散歩をしています。

【ジニー】：サプリメントは摂取しませんが、食生活に気を使い毎日自炊をし、肉類は鶏肉のみで、野菜や豆を中心に食べます。週2、3回の運動に加えて、家が10階にある

ので、階段を使って昇り降りするように心がけています。

【ジャーマン】：体調管理として、毎日ストレッチや美容体操を5分～10分行っています。糖尿病のため約10種類の薬を飲み、インスリン注射もしています。サプリメントは、マルチビタミンを3種類 (Neurobion, MX3, Enervon) 摂取しています。

＼質問②／ 健康維持のための活動で、関心がありまだ取り組んだことのないものはありますか？

【ビッキー】：夫が病気なので、看病に追われて時間が作れませんが、余裕があればヨガをもっとやりたいです。またアウトドア活動として、ハイキングなどにも興味があります。

【ベラ】：トレッキングは既に経験済ですが、家族と山登りをしてみたいです。家のスペースが限られているので現実的には難しいですが、自分の家でランニングマシンを使いたいです。

【ラミア】：現在の生活に満足していますが、もし機会があるなら海外旅行をしてみたいです。

【トニー】：都会に比べて田舎は空気がきれ

いで体にも良いので、田舎に住めたらと思います。

【ジニー】：スキューバダイビングやハイキングは既に経験したことがあるので、挑戦したことのない活動としてルソン島のスービックでのパラグライダーに興味があります。

【ジャーマン】：糖尿病のため、日をまたいでの長距離移動は難しいですが、フィリピンの国内巡りをしたいです。

＼質問③／ 退職している場合は、どのような生活を送っていますか？

【ビッキー】：現在も働いていますが、退職した後は海か山など自然に囲まれたところで生活したいです。老後は退屈しないようにヨガやズンバ、あるいは絵画などを楽しめたらと思います。

【ベラ】：医者仕事を退き、経済面では旅行や買い物など必要なときにお金が引き出せるよう投資は止め、節約に努めています。現在、運動には月に1,500ペソ～2,000ペソ使っていますが、体重管理と健康維持のため、今後もズンバなどの運動は続けたいと思います。ジムで1時間～2時間ほど運動できる体力を維持できていることに加え、ズンバを通して友人との繋がりも増え人と

の交流も楽しんでいます。

【ラミア】：現在の警備員の仕事は、3年後に私が65歳になった時点で辞める予定です。しかし、その後も仕事は続け、トライシクルを買って運転手をするなどして家計を支えたいと考えています。

【トニー】：私は体が動く限り退職はしないつもりですが、田舎に住んで農業にイそしむ生活に興味はあります。

【ジニー】：母が病気になった時に退職するように頼まれ、仕事を辞めたので、退職してから暫く経ちました。親からの遺産と不労所得もあるので、経済的な問題はありません。

【ジャーマン】：糖尿病など私の健康状態を考えると、2年～3年以内には退職せざるを得ないと思います。退職してからは、私の故郷の田舎で余生を過ごしたいです。

た家族に頼ると思います。ただ、仮に介護施設を利用しなければならなくなった場合に備えてお金は用意してあります。現時点では、私が医者資格を有していることもあり、自分で健康管理に配慮しています。

【トニー】：看護師の子どもと住んでいるので、介護が必要になったら家で子どもにお願いします。

【ジニー】：看病していた母が亡くなってから、私が中心に看病していたこともあり財産の大半を引き継ぎました。3人の兄弟が亡くなってから甥や姪と生活するのは気を使うので、現在は一人で暮らしています。そのため、もし病気になった場合は病院に一人で行くなど、何でも自分で対処しなければなりません。毎朝10時にコンドミニアムのスタッフが私のところへ来てくれるので、助かっています。

【ジャーマン】：2018年6月に4日間ほど入院を経験しました。その際は一番下の娘に費用を負担してもらいました。私たち両親が金銭的に困った場合は、娘に助けてもらっています。

思います。若いころから民間の医療保険にも加入してきましたが、先進医療は保険適用外でこちら保障内容が十分とは言えません。老後の生活を考えるならば、できるだけ若いうちからお金を節約して投資をするなど準備が必要です。

【ラミア】：確かにSSSから支給される年金は少ないかもしれませんが、何も無いよりは良いので満足しています。

【トニー】：私の実体験を紹介すると、妻が病院にかかった際、合計で70,000ペソの治療費が発生しましたが、フィルヘルスで保障された金額はたった12,000ペソでした。

【ジャーマン】：私は時々救命ボランティアをすることがありますが、患者を公立病院に連れていく際は複雑な気持ちになります。公立病院は私立病院に比べて確かに治療費は安いですが、大変混み合っていてすぐに診療を受けられないからです。一方で私立病院は、私が血管形成の治療を受けた際40万ペソもかかったように確かに治療費は高いですが、しっかりと治療を受けられます。SSSから支給されている私の年金は毎月3,600ペソですが、持病の糖尿病の薬にお金がかかってしまうので十分な金額ではありません。子どもたちに経済的に助けてもらっています。

＼質問④／

介護が必要になった際には、誰を頼りにしますか？

【ビッキー】：夫の看病があり病気で寝込むこともできないので、自身の介護について想像することは難しいです。子どもたちは自立して各々家族があるので、もし本当に病気になった際には、介護施設にお世話になると思います。その際は、以前両親がお世話になった介護施設かその代理店を選ぶでしょう。普段から人混みは避けるなど健康には細心の注意を払っているので、介護が必要にならないことを願います。

【ベラ】：フィリピン人の家族の繋がりはとても強く、私がいも介護が必要になったら、田舎の家族のところへ帰って、親戚を含め

＼質問⑤／

政府の高齢者への政策についてどう思いますか？

【ビッキー】：私の場合、医療費の30%がフィルヘルスでカバーされるのみで、高齢者が生活するには保障内容としては不十分です。保障された金額を受け取る手続きに時間もかかります。Social Security System (SSS) から支給される年金も高齢者が生活するには不十分です。

【ベラ】：私も国の医療保険は十分でない

座談会参加者



ビッキーさん

性別：女性
年齢：69歳
人種：マレー
宗教：カトリック
学歴：高校卒
職業：不動産業
月収：10万ペソ以上～25万ペソ未満
既婚・未婚：既婚
家族人数：2人
同居人：夫



ベラさん

性別：女性
年齢：62歳
人種：マレー
宗教：カトリック
学歴：大学院卒
職業：非活動中の医師
月収：6万ペソ以上～10万ペソ未満
既婚・未婚：死別
家族人数：1人
同居人：単身



ラミアさん

性別：男性
年齢：62歳
人種：マレー
宗教：カトリック
学歴：高校卒
職業：警備員
月収：1.2万ペソ以上～2万ペソ未満
既婚・未婚：既婚
家族人数：5人
同居人：妻、子ども



トニーさん

性別：男性
年齢：66歳
人種：マレー
宗教：カトリック
学歴：高校卒
職業：公務員
月収：2万ペソ以上～4万ペソ未満
既婚・未婚：既婚
家族人数：6人以上
同居人：妻、子ども



ジニーさん

性別：女性
年齢：64歳
人種：マレー
宗教：カトリック
学歴：大学院卒
職業：退職
月収：10万ペソ以上～25万ペソ未満
既婚・未婚：離別
家族人数：1人
同居人：単身



ジャーマンさん

性別：男性
年齢：67歳
人種：マレー
宗教：カトリック
学歴：大学卒
職業：公務員
月収：2万ペソ以上～4万ペソ未満
既婚・未婚：既婚
家族人数：4人
同居人：妻、子ども





-Manila Edition-

HEALTHY LIFESTYLE

ヘルシーライフスタイル | マニラ版

発行	2019年2月
発行者	日本貿易振興機構（ジェトロ） 〒107-6006 東京都港区赤坂1丁目 12-32 アーク森ビル（総合案内6階） TEL : 03-3582-5511 www.jetro.go.jp
制作	ジェトロ・マニラ事務所 44th Floor, Philamlife Tower, 8767 Paseo de Roxas, Makati City 1226, Metro Manila, PHILIPPINES TEL : (63)2-892-4376 www.jetro.go.jp/philippines

Copyright (C) 2019 JETRO. All rights reserved.

本書の一部または全部の複製（コピー）・複製・転載及び記録媒体への入力等は、著作権法上での例外を除き、禁じます。これらの許諾については、ジェトロまでご照会ください。

ジェトロは、本報告書の記載内容に関して生じた直接的、間接的、あるいは懲罰的損害および利益の喪失については、一切の責任を負いません。これはたとえジェトロがかかる損害の可能性を知らされていても同様とします。

JETRO